

# リアホナ

彼らは救い主を知りました——  
あなたにもできます, 14 ページ

「見つけ、提出し、教える」  
家族歴史の業, 22 ページ

家族の誰かが教会を離れるときに  
対処できる8つの方法, 28 ページ

再婚——  
二つの家族がどのようにして  
一つになったか, 36 ページ





『あなたは父が見た木の意味を知っているか。』  
それでわたしは答えて言った。  
『はい、その木は人の子らの心にあまねく注がれる神の愛です。  
だから、どんなものよりも好ましいものです。』』

1 ニーファイ 11:21 - 22



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
乱気流の中で安全に着陸する  
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
神によって定められた結婚

特集

- 14 鉄の棒にしっかりとつかまる  
ダニエル・L・ジョンソン長老  
命の木に通じる道には4つのグループが出てきます。あなたはどのグループに属したいですか。

18 モルモンの奇跡の書

ジョン・L・ソレンソン  
モルモンが記録を作成するときに直面した苦勞をあなたが理解するときに、モルモン書への感謝が増すでしょう。

22 家族歴史の業がもたらす喜び

クエンティン・L・クック長老  
わたしたちは家族と家族歴史の業を優先することで、わたしたちの神聖な行く末を守ることができます。

28 子供が教会を離れるとき

ロビン・ゼンガー・ベーカー  
家族の誰かが教会を離れるのはつらいものです。これらのアイデアが助けになります。

32 効果的な話し合いを指揮する

ダスティン・ウェスト  
これらの原則を使うことにより、福音の話し合いを学習の交響曲に変えることができます。

36 再婚 —— 忍耐と愛の冒険

ハイディ・エルヤボ・モレル・アンデルセン  
二つの家族を一つにするには、2倍の愛と2倍の忍耐を必要とします。

シリーズ

- 8 2015年10月の大会ノート
- 10 キリストについて語る ——  
別れた夫を救す  
匿名
- 12 熟考 ——  
サントールサントールの木が教えてくれたこと  
アイリーン・タニエグラ
- 13 教会での奉仕 ——  
奉仕することを選びました  
イルムガルト・マイスナー
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで ——  
真の偉大さ  
ハワード・W・ハンター大管長

表紙

表紙 ——  
イラスト/ジョセフ・ブリッキー  
表紙裏 ——  
写真/Kevron2001/iStock/Thinkstock  
裏表紙裏 ——  
写真/コーティ・ベル



50

44 **モルモン書は幸福についてどう教えているか**

ハンク・R・スミス

真の幸福を見つけるために従うことのできる明確な指針があります。

50 **インスティテュートの卒業が大切な理由**

マシュー・ポーター・ウィルコックス

4つの新しいコーナーストーンクラスは、ヤングアダルトが信仰を深めるのを助けてくれるでしょう。



65

52 **ポスター —— 大きく考えよう**

53 **皆さんの信仰は成長するので**

ニール・L・アンダーセン長老

54 **わたしの回復室**

サラ・N・ホール

わたしの生涯で最も大変な年が、わたしの生涯で最良の年となりました。

56 **あなたの将来 —— 目的をもって卓越する**

成功する将来をあなたは今日、作り始めることができます。

60 **聖霊を通して与えられる助け**

黄(サム) 志康長老

教授は自動的に全学生の答えを不正解としましたが、わたしの答えは合っていました。聖霊の助けに感謝しました。

62 **質疑応答**

「わたしの友人の何人かは、教会に行くのは時間の無駄だと思っています。教会に行くと大きな祝福が得られるということを分かってもらうために、わたしにはどんな助けができるでしょうか。」

64 **教会指導者からの答え 喜びを見いだすには**

ダリン・H・オークス長老

65 **危うく逃しそうになった伝道の機会**

アンネ・ラレスカ

他の誰かがブレンダを自分の教会に誘うまで、わたしは彼女を教会に誘おうとは思いませんでした。



72

66 **使徒からの答え —— どうしたら日曜日を特別な日にできるでしょうか**

ラッセル・M・ネルソン会長

67 **音楽 —— 心向けければ**

サリー・デフォード

68 **しっかりと立つ子供たち —— 標準を分かち合う**

ヒラリー・ワトキンス・レモン

70 **あかしという宝物**

レオナルド・ロドリゲス

サブリーナは、彼女のあかしという宝物が、分かち合うことでふえるのだと知りました。

72 **古い せかいと 新しい せかいからの せいぶん**

モルモン書の せいくと せかいの よげんしゃを つなげましょう。

74 **モルモン書のヒーロー —— エノスはよくいの人でした**

75 **わたしは モルモン書を 読むことが できます**

76 **モルモン書 ものがたり —— 海を わたる ニーファイの かぞく**

79 **色を ぬりましょう —— わたしの かぞくは とくべつです**



こんげつごう なか かく  
今月号の中に隠れている  
リアホナを捜しましょう。

ヒント ——  
もっこうどうぐ だ  
木工道具を出しましょう。

# 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「家族歴史の業がもたらす喜び」22 ページ  
—— 家族歴史の業を始めるに当たり、まず「ファミリーツリーの集い」を開くよう、クック長老は勧めています。家庭の夕べで、FamilySearch.org を活用して家族の情報や体験談、写真を記録するとよいでしょう。クック長老は約束しています。「時間と現世の限界の向こうを見据えて自分ではなすすべのない人を助けるならば、家族内のさらなる親密さ喜び、また主の務めを忠実に果たす者に与えられる神聖な守りが得られ[ます]。』

「あかしという宝物」70 ページ —— 自分の証は宝物だと気づいたサブリーナは、皆にそれを伝えたくまりました。家族が「あかしという宝物」を持っていることが分かるよう助けましょう。そのために、イエス・キリストの福音をなぜ愛しているのか、福音はどのような気持ちをもたらしめているのか、また、日々の生活で福音がどのように生かされているのかについて話し合うとよいでしょう。これらの質問に対する各自の答えを、書き留めるか録音機を使って記録してもらおうとよいでしょう。今週、宝物の証を誰に分かち合うか、その相手を選ぶよう皆に勧めてはどうでしょうか。

## あなたの言語で

[languages.lds.org](http://languages.lds.org) で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。家庭の夕べのアイデアや、日曜日のレッスンのためのヒントや、友達、家族と分かち合える内容を見つけるために、[Facebook.com/liahona.magazine](http://Facebook.com/liahona.magazine) (現在は英語・スペイン語・ポルトガル語のみ) をご覧ください。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- |                               |                           |   |
|-------------------------------|---------------------------|---|
| 愛, 10, 36                     | 逆境, 4, 10, 12, 28, 54     | 伝道活動, 13, 40, 41, 42, 65, 68, 70              |
| 証, 40, 43, 70                 | 結婚, 7, 36                 | 忍耐, 12, 36                                    |
| 安息日, 62, 66                   | 従順, 12, 44, 64, 68        | 奉仕, 13, 66, 68, 80                            |
| イエス・キリスト, 4, 10, 12, 14       | 信仰, 4, 12, 28, 41, 54, 64 | 模範, 62, 68, 80                                |
| 祈り, 28, 54, 74                | 神殿の業, 13, 22, 28, 44, 54  | モルモン書, 14, 18, 43, 44, 60, 70, 72, 74, 75, 76 |
| インスティテュート, 50                 | 聖典, 10, 14, 18, 72        | 喜び, 22, 44, 64                                |
| 教え, 32                        | 聖文研究, 10, 14, 54          | 礼拝, 62, 66                                    |
| 家族, 7, 22, 36, 41, 44, 66, 79 | 聖霊, 32, 60, 65            | 労働, 44, 56                                    |
| 家族歴史, 22                      | 備え, 56                    |   |
| 希望, 28, 54                    | 家族歴史, 22                  |   |
|                               | 希望, 28, 54                |   |



大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

# 乱気流の中で 安全に 着陸する

**先**日、妻のハリエットとわたしは、空港で巨大な飛行機が次々と着陸するのを見ました。それは風の強い日のことで、着陸しようとしている飛行機に突風が吹きつけ、そのためにどの飛行機も近づいて来るときに進路を外れ、激しく揺れました。

自然と機械のこの闘いを見ながら、わたしは自分が受けた飛行訓練と、そこで学び、そして後に他のパイロットを訓練する際に教えた原則を思い出しました。

「乱気流の中で飛行機の制御装置と闘ってはならない」と、わたしはいつも彼らに言ってきました。「平常心を保ち、取り乱さないこと。滑走路のセンターラインから目を離さないこと。目標の進入路から外れた場合、迅速に、しかし注意深く修正すること。飛行機の能力を信頼し、乱気流を乗り切ること。」

経験豊かなパイロットは、周りで起こることを必ずしもコントロールできるわけではないということを理解しています。乱気流をなくすことはできません。雨や雪をやませることはできません。吹く風を止めることや風向きを変えることはできません。

しかし、彼らは乱気流や強風を恐れること、また特にそれらによって制御不能に陥るのを恐れることは間違いであるということも理解しています。状況が理想的とは言えない場

合に安全に着陸する方法は、できるだけ完全に正しい着陸コースを保つことです。

わたしは飛行機が次々に最終着陸態勢に入るのを見て、パイロットとして長年学んできた原則を思い出しながら、わたしたちの日々の生活に応用できる教訓があるのではないかと思いました。

わたしたちは人生の道中に訪れる嵐を必ずしも制御することはできません。時折、どうしても思いどおりにはいかないことがあります。失望や疑念、不安、悲しみ、ストレスの乱気流にあおられ、吹き飛ばされていると感じることがあるかもしれません。

そのようなときに、うまくいかないあらゆることに心を奪われ、それしか考えられなくなってしまうことがよくあります。救い主と、真理に対する自分の証<sup>あかし</sup>ではなく、直面している試練に集中するという誘惑に駆られます。

しかしそれは、人生におけるチャレンジを乗り越える最善の方法ではありません。

経験豊かなパイロットが嵐ではなく、滑走路のセンターラインと的確な着地点に集中し続けるように、わたしたちも信仰の中心である救い主、福音、また天の御父の計画に、そして最終的なゴールである天の目的地に安全に帰ることに集中し続けなければなりません。神を信頼し、また弟子として



歩む道にとどまることに努力を集中しなければなりません。進むべきだと分かっている道を歩いて生きること、目と心と思いを集中し続けなければなりません。

戒めを喜んで守ることによって天の御父を信じる信仰と御父への信頼を示すことは、わたしたちに幸せと栄光

をもたらします。進路から外れていなければ、乱気流がどれほど激しく見えても、わたしたちはそれを乗り切り、天の家に安全に帰れるのです。

周囲の空が晴れていようと、あるいは雨になりそうな雲が垂れ込めていようと、わたしたちはイエス・キリストの弟子として、まず神の王国と神の義を

求めます。そうすれば、最終的に必要なものが全て与えられることが分かります（マタイ6：33 参照）。

何と大切な人生の教訓でしょう。

困難、苦闘、疑念、不安に心を奪われれば奪われるほど、事態はもっと難しくなる可能性があります。しかし、天にある最終目的地に集中し、弟子の道に従うこと、すなわち神を愛し、隣人に仕えることに伴う喜びに集中すればするほど、困難と乱気流の時期を首尾よく乗り越えやすくなります。

愛する友である皆さん、死すべき世の風がわたしたちの周囲でどれほど激しく吹き荒れようと、イエス・キリストの福音は常に、天の御父の王国に安全に到達する最善の方法を示してくれるのです。■

### このメッセージから教える

**ウ**ークトドルフ管長は、「神を信頼し、また弟子として歩む道にとどまることに努力を集中〔するよう〕」と勧告しています。あなたが教えている人たちに、試練に直面したとき、どのように「天にある最終目的地」と「弟子の道に従うことに伴う喜び」に集中してきたか尋ねるとよいでしょう。困難に出遭ったときにどうしたら自分の証とキリストに集中することができるか考えて、その方法を一つかそれ以上、生活でどのように実践するかよく祈って決めるように勧めるとよいでしょう。



## わたしの証<sup>あかし</sup>を築く基

ジェニファー・ウィーバー

**わ**たしが16歳のとき、友人が宣教師と一緒に我が家を訪ねて来ました。初めて宣教師から福音を学んで1か月もたないうちに、わたしの疑問は全てはっきりと答えられました。回復に関するメッセージは真実であると聖霊が証してくださるのを感じました。それまでに感じたことのないものでした。そして、わたしはその全てが真実であることを知ったのです。

ところが、かつてないひどい拒絶と反対を経験することになりました。わたしは孤独を感じ、疲れ、困惑しました。正しいことを行っていたのなら、なぜあれほどひどい逆境に遭ったのでしょうか。試練がどれほど自分の益になるかということを、わたしは理解できませんでした。宣教師は断食して祈ることを教えてくれました。学

校の授業のある日中でもです。耐えられない状況になったとき、わたしは心を注ぎ出して祈り、すぐに御霊<sup>みたま</sup>の慰めを感じました。

バプテスマの週は試練に満ちていました。バプテスマを受けに行かないで他の者の代わりに仕事をしなければ解雇するとアルバイト先の上司から脅されましたし、腎臓結石で入院もしました。また、両親からは家を出るように言われました。自分の力ではどうしようもないことがとても多くあって、できることはただ一つ、主に頼ることだけでした。

それらの試練の全てが結局わたしの益になりました。福音の教義について学ぶのに役立つ、それが証を築く基となったのです。

筆者はアメリカ合衆国アイダホ州在住です。

## こども

### イエスはわたしたちをみもとに みちびいてくださいます

**イ**エス・キリストのもはんにしたがるなら、イエスのもとに通じるまっすぐでせまい道<sup>みち</sup>を歩いているのと同じです。飛行機が安全<sup>あんぜん</sup>に滑走路<sup>かっそうろ</sup>に着陸するように、わたしたちは安全<sup>あんぜん</sup>で幸せ<sup>しあわせ</sup>でいられます。飛行機が迷路<sup>めいろ</sup>の中を進んで、滑走路<sup>かっそうろ</sup>にもどれるようにみちびいてあげましょう。





よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるようお願いしてください。  
「家族——世界への宣言」について理解することによって、神を信じるあなたの信仰はどれほど増し、家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹をどのように祝福するでしょうか。詳しくは [www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn](http://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn) をご覧ください。

## 神によって定められた結婚

**預**言者、使徒、指導者は今日も、「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は……創造主の計画の中心を成すものであることを厳粛に宣言し」<sup>1</sup>しています。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように述べています。「男女間の結婚の上に築かれた家族は、神の計画が成功するための最良の環境を提供してくれます。……

わたしたちの誰であっても、この神聖な婚姻関係という秩序に変更を加えることはできません。」<sup>2</sup>

中央若い女性会長のボニー・L・オスカーソン姉妹はこう語っています。「既婚か独身か、何人子供がいるかに関係なく、全ての女性は家族の宣言に記されている主の計画の擁護者となることができます。主の計画は、わたしたちの計画でもあるべきです。」<sup>3</sup>

クリストファーソン長老は続けてこう述べています。「皆さんの中には、ふさわしい相手がいないこと、同性に引かれる性質、身体的や精神的な障がい、単に失敗に対する恐



れ……などの理由で、結婚の祝福にあずかることのできていない人もいられるでしょう。あるいは結婚したけれども、結婚生活が終わりを迎え[た]……人もいられるでしょう。……結婚した皆さんの中でも、……子供に恵まれない人もいられるでしょう。……

たとえそうであっても、……全ての人[は]それぞれの世代にあって、誰もが神の計画を進めるうえで貢献することができるのです。」<sup>4</sup>

### その他の聖句

創世 2 : 18 - 24 ; 1 コリント 11 : 11 ; 教義と聖約 49 : 15 - 17

#### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129
2. D・トッド・クリストファーソン「なぜ結婚、なぜ家族か」『リアホナ』2015年5月号、52
3. ボニー・L・オスカーソン「家族の宣言の擁護者」『リアホナ』2015年5月号、15
4. D・トッド・クリストファーソン「なぜ結婚、なぜ家族か」52 参照
5. ラリー・M・ギブソン「Fulfilling Our Eternal Destiny」*Ensign*, 2015年2月号、21-22
6. デビッド・A・ベドナー「結婚——神の永遠の計画に不可欠なもの」『リアホナ』2006年6月号、54



信仰・家族・扶助

### 現代の人々の経験から

中央若い男性会長会第一顧問のラリー・M・ギブソン兄弟は、妻シャーリーが結婚する前にこう言ったのをよく覚えています。

「『あなたがわたしよりも主の方をもっと深く愛していることを知っているから、わたしはあなたを愛しているのよ。』……

妻のこの言葉はわたしの心を打ちました。……

『そして』わたしが何よりも主を愛していることを、いつも妻に感じ取ってほしいと思いました。』<sup>5</sup>

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように教えました。「結婚の聖約を交わした二人の間には主イエス・キリストがおられます。救い主が三角形の頂点におられること〔を想像〕してください。女性は三角形の底辺の一方の端に、男性は反対側の端にいます。さて、この男女がそれぞれ着実に『キリストのもとに来て、キリストによって完全に』なろうと努力したら、二人の関係はどうなるでしょう（モロナイ 10 : 32）。<sup>あがな</sup>贖い主のおかげで、また贖い主を通じて、二人の距離は次第に縮まります。』<sup>6</sup>

### 考えてみましょう

わたしは「キリストのもとに来る」ために、どのような方法で個人的に、着実に努力しているでしょうか。

# 2015年10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ〔る。〕……  
わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、  
それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2015年10月の総大会を復習する際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、  
生ける預言者と使徒、他の教会指導者の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。

## 教義的な重要点



## 安息日を尊ぶ

「安息日を尊ぶことは、義にかなった生活の一形態であり、家族を強め、祝福し、創造主とのつながりをもたらし、幸福を増し加えてくれます。安息日は、取るに足りない、不適切な、あるいは不道德的なものとの関係を断つのに役立ちます。この戒めにより、わたしたちは世の中にあっても、世のもの

とならずに済むのです。……安息日を心から聖く守ることは、この世の嵐を経験するときに守りとな〔ります〕。またそうすることは、天の御父に対するわたしたちの献身のしるしで〔す〕。」

十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老  
「プリストルの船のように——  
順風でも逆風でも、神殿にふさわしく」  
『リアホナ』2015年11月号、41-42参照

## 預言者の約束



## 天の御父は 皆さんの奉仕に 感謝しておられます

「神権の召しが何であれ、皆さんは時に、天の御父は皆さんに気づいておられないと感じたことがあるかもしれません。皆さんは御父の御心を知るために祈ることができます。そして御父が望まれることは何でも行うという誠実な望みをもって尋ねるなら、皆さんは答えを受けましょう。

天の御父は、御父が皆さんを御存じであり、皆さんの奉仕に感謝しておられ、皆さんが主から聞きたいと心から願っている『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』〔マタイ25:23〕という言葉を受ける資格を身につけつつあることを感じさせてくださるでしょう。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長  
「あなたは主の業の中で一人ではない」  
『リアホナ』2015年11月号、82

## シングルアダルト会員へ

3人の話者が、独身であることについて語ったことを次に挙げます。

- 「『今は永遠の時間の一部なの。永遠は死んだ後に始まるわけじゃないわ。信仰と希望が、目の前にある幸福に気づかせてくれるのよ。』」——ダイーター・F・ワークトドルフ管長「ローズおばさんと過ごした夏」19
- 「もう一つのつらい試練は、孤独の境遇にあることです。この状態に悩んでいる人々は、救い主もこの種の苦しみを経験されたこと、そして、贖罪を通じて、主はそれに耐える強さを与えてくださることを忘れない

てください。』——ダリン・H・オークス長老「イエス・キリストの贖罪により強められる」63

- 「忍耐強くあってください。主に仕えてください。主はあなたの望みを御存じで、あなたの主への忠実さのゆえにあなたを愛しておられます。主はあなたに対する計画をお持ちです。それがこの世であろうと次の世であろうとです。主の御霊に耳を傾けてください。この世か、あるいは次の世において、主の約束は果たされます。」——ロバート・D・ヘイルズ長老「今日の世界のチャレンジに立ち向かう」46



### 主の標準を満たす

「姉妹の皆さん、サタンはコリホルのような影響を用いて、今日成功を収めています。サタンの道具とはどのようなものでしょうか。魅惑的な恋愛小説、テレビのメロドラマ、ソーシャルメディアでつながっている既婚女性と昔の恋人、ポルノグラフィー……サタンの火の矢をもてあそべば必ずやけどを負うのです。……

天の御父の標準より低いものを、見たり、読んだり、経験したりするなら、わたしたちは弱められます。年齢に関わりなく、見るもの、読むもの、聞くもの、行うことが、『若人の強さのために』にある主の標準を満たしていなければ、それを消し、破り捨て、投げ捨て、そしてドアを勢いよく閉めてください。」

中央扶助協会会長第二顧問  
リンダ・S・リーブズ  
「約束された祝福にふさわしくある」  
『リアホナ』2015年11月号, 10

### 大会で話されたすばらしい物語

すばらしい物語以上にわたしたちの心を引くものがあるでしょうか。以下は、総大会で話された多くの物語のうちの一つです。

- クロエとチャイルドシートの話は、戒めを守ることにわたしたちに何を教えてくれるでしょうか。——キャロル・M・スティーブズ「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」118 参照
- パブロの父親のように、わたしたちはどのように子供たちが福音を理解するのを助けることができるでしょうか。——ブラッドリー・D・フォスター「早すぎることも遅すぎることも決してありません」50 参照

総大会説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、[lds.org/general-conference?lang=jpn](https://lds.org/general-conference?lang=jpn) にアクセスしてください。

# 別れた夫を赦す<sup>ゆる</sup>

匿名

キリストの愛と赦しの模範について研究することによって、離婚後に感じた心の痛みを克服することができました。

**離婚**婚という望まぬ状況に陥って自分が未知の領域にいることが分かったとき、味わったことのない心痛と過去の結婚生活を否定する気持ちが交錯していました。わたしは40代半ばに差しかかっており、独りで10代の子供たちを育て、フルタイムで働き、住宅ローンの返済をしなければなりません。抗し難い重荷と疲労と不安がありました。それ以上に今まで感じたことのないほどのひどい心の痛みを、ほとんど常に感じていました。

わたしには福音の土台があり、義にかなった生き方をしたいという望みがありましたから、別れた夫を赦さなければならないことは分かっていました。別れた夫を子供の前で批判しないことが大事だと分かってはいても、夫との過去の生活を否定的に見ていたため、泣きわめきたい衝動に駆られました。この気持ちをどう克服したらよいのでしょうか。

来る日も来る日も苦しみ、聖文を讀

んで御霊<sup>みたま</sup>の導きを求めました。夜も昼も、一生懸命に調べました。初めてこのような人生の岐路に立たされたわたしは、救い主の模範に従い、「わたしについて来なさい」という主の呼びかけに従うために何ができるのかを知る必要がありました。

聖文を研究しながら、自分が生活の中で育みたいイエス・キリストの特質を書き出しました。地上で務めを果たしておられた間にイエスがお伝えになった話やたとえから学べる教えを書き留めました。赦しについて心に感じた事柄を書き出しました。主が経験した苦難や試練と、それをどう克

服されたかを、一生懸命にノートに書きました。

主の苦しみの方がはるかに深かったのに、主は御自分を傷つけた人をお赦しになったことが、次第に分かってきました。主は完全な模範でした。主の生き方から学んだことをたくさん書き込んだこのノートは、わたしにとって、大きな力の源になりました。それは、わたしの命綱でした。主の模範に従って、できる限り試練に耐えようと心に決めました。苦しみをかき分けて進もうと思いました。

そして、努力が実ったのです。あれから数年がたち、別れた夫と良い関係



## ゆる 赦し —— 福音の真髄

「赦しの精神と、愛と思いやりのある態度をもって、自分を苦しめる原因となった相手に接するのは、イエス・キリストの福音の真髄です。わたしたちに必要なのはこの精神です。全世界もそれを必要としています。主はその真髄を教え、自らその模範を示されました。それに勝る模範はありません。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）  
「汝らには赦すことを求められる」『聖徒の道』1991年11月号、3



を築くという祝福にあずかっています。元夫は再婚しましたが、子供たちの両親というわたしたちの関係は良好で、苦い思いとは無縁です。キリストの模範に従い、元夫を批判しなかったおかげで、心の痛みと過去を否定的に見るといふ負の感情を克服しました。今は愛することができます。

この厳しい試練で何と尊い教訓を学んだことでしょうか。救い主の完全な模範に感謝しています。救い主はわたしの岩であり、わたしの土台です。そして、わたしは孤独を感じる事がまったくなくなりました。わたしには主の愛と贖罪しよくざい、主の完全な模範、愛する天の御父の愛と祝福があるのです。■

#### 試練のときに聖文研究から得られる助け

「聖文は動揺した心を落ち着かせ、平安と希望を与え、人生の試練を克服する自分の力を信頼する気持ちを取り戻させてくれます。聖文は、救い主を信じる信仰があるときに、情緒的な問題を解決する強い力を発揮します。」(リチャード・G・スコット「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号, 6)

この姉妹が試練を乗り越えるためにしたことを行ってみてはいかかでしょうか。聖文を研究して、救い主やその他の忠実な人々の特質を探すのです。その模範からあなたの試練や疑問の解決の糸口が見つかるかもしれません。研究したいテーマが分かっている場合、『聖句ガイド』を見れば、どの聖句から調べればよいか見当がつきます。例えば、「堪え忍ぶ」「赦す」「忍耐」などです。

# サントールの木が教えてくれたこと

アイリーン・タニエグラ

わたしたちは嵐に遭ったサントールの実とよく似ています。

2009年6月23日、フィリピンは台風に見舞われました。その日の午後、わたしたちの住む地域は嚴重な台風警報下にありました。その後、夜にかけて、屋根に何かたたきつけている音が聞こえました。何の音かと息子に聞かれ、わたしはサントールの木（訳注——東南アジア原産の木）が風に吹きつけられている音だと答えました。

甘くなったサントールの実を、予定どおり前の日に取っておかなかったことを後悔しました。母から、実はまだ熟していないのでそのまましておくようにと言われていたのです。

実が全部地面に落ちているのではないかと心配で、翌朝5時に外に木を見に行きました。外はまだ暗く、木の様子は分かりませんでした。4個の小さな実が裏庭に散らばっているのが見えました。

1時間後、もう一度木を調べました。うれしいことに、大きくて黄緑色の実がまだたくさん枝についています。落ちた実を集めてみると、二つの実は下の方が傷んで茶色くなっているのが分かりました。もう一つは黒い小さな斑点が出て変色し、最後の一つは形がいびつで小さな突起だらけでした。

拾い集めたものよりも2倍大きくて重い実が落ちているだろうという予想とは異なり、実際は、大きい実はまだしっかりと木についていました。

この経験について考えたとき、わたしたちもサントールの二つの種類の実にとてもよく似ていると思いました。落ちてしまった実と、木に残った実の2種類です。救い主イエス・キリストという命の木にしっかりとつかまっていなければ、わたしたちも人生の試練の風に吹きつけられて落ちてしまうかもしれません（1ニーファイ8：10；11：8-9, 20-23参照）。

サントールの木から落ちた実は病気にかかっていたために弱く、風に耐えることができませんでした。落ちずに木に残ったのは、健康で強い実だったのです。わたしたちも、聖文と

生ける預言者から学び、戒めを守り、人々に奉仕することで自分自身を霊的に強く、健康に保たなければ、サタンが振るう力を受けて落ちてしまうかもしれません。

柔らかい実がサントールの木から力を得ることをやめた瞬間に、成長が止まってしまいます。わたしたちも同じように、キリストというまことのぶどうの木から離れた瞬間に、霊的な成長は止まってしまうのです（ヨハネ15：1；1ニーファイ15：15参照）。

また時には、風に身を任せてしなることも必要です。試練はこの世における人生の一部です。謙遜な心は、苦しいときに神の御心<sup>みこころ</sup>を受け入れるのを助けてくれます。謙遜さは罪を悔い改め、人を救<sup>ゆる</sup>し、人から受けた嫌なことを忘れる助けになります。

謙遜と同様に大切なのが忍耐です。試練にあって忍耐し、もうしばらく信仰を保つなら、求める答えが得られるかもしれません。たとえそのとき得られなくても、いつか救い主は嵐を静めてくださいます。平和と解放は必ず来ます。従順で忠実であれば、何をもってしてもわたしたちを神の愛から引き離すことはできないのです（ローマ3：38-39参照）。■

筆者はフィリピン、サンホセ市在住です。



## 奉仕することを選びました

イルムガルト・マイスナー

夫はがんで闘病中でしたが、わたしたちは、ちゅうちよすることなくドイツ・フランクフルト神殿で奉仕する召しを受け入れました。

1994年12月12日、わたしたちはソルトレーク・シティーから電話を受けました。電話をくれた方は、人懐こい声で、当時大管長会第二顧問を務めていたトーマス・S・モンソン管長がわたしたちと話したいそうですと言いました。

モンソン管長は夫ゲアハルトにこう言いました。「ドイツ・フランクフルト神殿の会長が顧問としてあなたを、そして神殿メイトロン補佐として奥様を召すことを望んでいます。」そして、モンソン管長は夫の健康状態を気遣う言葉を口にしました。

ゲアハルトは11年の間、慢性リンパ性白血病と闘っていたのです。その問題があるにもかかわらず主が召されたのですから、わたしたちは、ちゅうちよすることなく承諾しました。

奉仕に備えてわたしが仕事を辞め

るとき、上司は「給料を上げたら残ってくれますか」と聞いてきました。

「いいえ、残れません」とわたしは答えて、わたしたち夫婦が伝道に出る約束を主と交わしていることを話しました。「数年後には奉仕するつもりでしたが、それまで夫が活着ているか分かりませんから。」

2週間ほど後にゲアハルトが定期検査を受けると、医師からこう言われました。「行かないでください。命の保証はできません。」

病状が悪化していたのです。わたしたちは衝撃を受けて、どうすれば召しを果たせるのか見当がつかみませんでした。心は信仰と希望と安心感で満たされていました。全てを主に委ねました。わたしたちに果たすべき務めがあるのなら、主はそれを成し遂げるための道を備えてくださるでしょう。

1995年1月2日、わたしたちは伝道に出ました。そのとたん、わたしはいろいろなものを犠牲にしていることに気づきました。母や子供たち、孫たち、仕事、家、庭の手入れなどです。それでも、わたしたちは翌日、フランクフルト神殿で任務に就きました。そこでは、わたしたちにとって暗かった夜が明け、輝かしい新しい一日が始まりました。日常生活のあらゆる重圧がなくなりました。

この聖なる場所で、救い主から放たれる愛と光、希望、喜び、信頼、温かさ、安心、守り、平安を見いだしました。奉仕する中で、さまざまな国から来た、すばらしい人たちと出会いました。それぞれ言語は違いましたが、愛という言語によってわたしたちは結ばれていました。神殿での奉仕のおかげで、わたしたちはとても幸せでした。

神殿にある御霊と神の力によって、愛する夫は2年と2か月間支えられました。神殿の召しを解任されて間もないある日、ゲアハルトはいつもの治療を受けるために病院に行きました。医師たちは、今度は夫を帰しませんでした。数か月後、ゲアハルトは天の家に戻りました。

振り返ってみると、神殿で奉仕した数年間は天からの贈り物だったと思います。愛にあふれる御父の宮で夫と手を取り合って働き、一緒に伝道するという約束を果たしたのです。あの経験ができたことを心の底から感謝しています。■

筆者はドイツのバイエルン在住です。





七十人  
ダニエル・L・  
ジョンソン長老

# 鉄の棒にしっかりとつかまる

聖文を絶えず研究することは、わたしたちの目と思いと心を救い主に集中し続ける助けとなり、  
聖文の教えを自分に当てはめて生活することにより、  
救い主にさらに似た者となります。

リーハイとその家族が荒れ野を旅していたとき、ある朝目を覚ますと、地面の上に「入念な造りの丸い球」を見つけました。その球には2本の指針があり、その1本は「〔彼らが〕進むべき方向を」指していました。(1ニーファイ16:10)

リアホナと呼ばれるその球には、彼らに「主の道について……理解を与えてくれる」「新しい言葉」も記されていました。その言葉は「〔彼らが〕寄せる信仰と熱意に応じて、時々書き替えられ」ました(1ニーファイ16:28-29参照)。

リーハイとその家族が既に持っていた真籙しんちゆうの版には、幾人かの旧約時代の預言者が書いた記録と預言が刻まれていました。その真籙の版とリアホナは彼らの聖文となり、リーハイの民は絶えずそれらを学んで心に留めるように求められました。彼らがそのようにすると、旅は順調に進みました。しかしそうしなければ、荒れ野でさまよい、飢えと渇きに苦しんだのでした。

リアホナの働きを通して、主はリーハイの民やわたしたちに何を教えようとしたのでしょうか。

聖文の主要な目的の一つは、救い主を知り、救い主を理解し、救い主に似た者となるように、わたしたちを助けることにあります(3ニーファイ27:27参照)。絶えず聖文を研究することは、わたしたちの目と思いと心を救い主に集中し続ける助けとなります。聖文の教えを自分に当てはめて生活することにより、救い主にさらに似た者となります。救い主にさらに似た者となると、わたしたちは永遠の命を受け継ぐ候補者となります(ヨハネ5:39参照)。

## リーハイの夢

リーハイの夢、または示現の中に、4つのグループの人々が出てきます。最初の3つのグループの人々は、命の木に通じている道に入りました。その道の門はバプテスマなので(2ニーファイ31:17-18参照)、教会の会員である最初の3つのグループの人々について話します。

大きく広々とした建物にまっすぐ進んで行った第4のグループについては話しません。でも、他の3つのグループについて考えるとき、自分自身を吟味して自分がどのグループに属しているのかを理解し、そしてどのグループに属したいと思うかを自問するとよいでしょう。

## 第1のグループ

「わたしは群れ集まる無数の人々を見たが、その中の多くは、わたしの立っているそばの木の所に通じる道にたどり着こうとして、押し進んでいた。

そして、その人たちは進んで来ると、木に通じている道を歩き始めた。

そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に深い暗黒の霧であったため、道を歩き始めていた人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。」(1ニーファイ8:21-23)

このグループの人々は、聖文を読んで研究すること、総大会を視聴すること、『リアホナ』を読むこと、あるいは日曜日の集会に出席することをしていないようです。これら全ては神の言葉を学ぶためにあります。その結果、このグループの人々は道に迷ってしまいます。







### 信仰を得るために

必要な信仰を得、維持するには、聖文を読み、研究し、深く考えることが不可欠です。

トマス・S・モンソン大管長  
「模範となり、光となる」  
『リアホナ』2015年11月号、87

### 第2のグループ

「そして、わたしはまた、押し進んで来るほかの人々を見たが、この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた。……

それでその木の所までやって来た人々は、その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった。」  
(1 ニューファイ 8 : 24, 28)

このグループの人々は鉄の棒をつかんですがったことに注目してください。彼らは命の木にたどり着き、その実を食べるまで鉄の棒につかまっていた。しかし、イエス・キリストの福音を恥ずかしいと思い、救い主に心を集中することをやめ、この世の楽しみ、誘惑、富に心を奪われたのです。そうして、彼らも道に迷ってしまいます。

これらの節を理解する鍵は、「鉄の棒にすが〔る〕」という聖句にあります。わたしはずがるという言葉で「こぶしが白くなる」という経験と比べてみます。皆さんが白い水しぶきを上げて川を下るラフティングをしたことがあ

れば、こぶしが白くなるほど強くボートにしがみついたことを覚えているでしょう。その後、静かな水面に来たら、どうしましたか。何もしなかったと思います。

福音の生活において、このようなことは、話を準備するように頼まれたときや家族の死、または人間関係の破綻のような危機に直面したときに起こることがあります。めったに耳を傾けることのない総大会の話を調べたり、日頃おろそかにしていた聖文を調べたりします。霊的な弱さのために、霊的な導きと助けを探し求めます。そして危機が過ぎ去ったら、何もしないのです。少なくとも次の危機や水しぶきを浴びるような事態が起きるまで、聖典を棚の上にしまい、たまに教会に出席するという古い習慣に後戻りし、日々の祈りをないがしろにします。言葉を変えるなら、継続的ではなく、差し迫った必要が起こったときにのみ救い主の方を振り向き、助けを求めているのです。

このグループの人々はバプテスマを受けていて、その多くがおそらく神権に聖任され、神殿の儀式を受け、専任宣教師として奉仕し、神殿で結婚しています。しかし彼らは何も

しないのです。継続的に聖文を読むことをやめ、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまうのです。

幸いなことに、ほとんどのヤングアダルトと帰還宣教師の皆さんは、これまで学び分かち合ってきた福音の真理に忠実に生活しています。さらに日々の聖文研究と祈りを通して、自らの生活において救い主に焦点を当てています。わたしたちは彼らとその忠実さに感謝しています。彼らは教会の将来を担う者であり、教会を発展させる人々の将来の両親なのです。

### 第3のグループ

「見よ、[リーハイ]は、このほかに大勢の人が押し進んで来るのを見た。この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。」(1ニーファイ8:30)

「しっかり鉄の棒につかまりながら」という聖句に注目してください。このグループの人々は、継続的に聖文を読んでいます。継続的に救い主に焦点を当てています。

聖典はわたしたちが学ぶことのできる最も大切なものです。化学、物理、会計、ダンス、音楽、スポーツ、その他のこの世の学習や活動よりも大切であると考えべきです。

毎日の生活を聖文から始めてください。祈りと聖文研究は車の両輪です。引き離すことのできない同僚なのです。不断の祈りによって聖文に導かれ、不断の聖文研究によって祈りに導かれます。この二つにより、救い主に焦点を当てるようにわたしたちを保つことができ、「しっかり鉄の棒につかま[る]」ことよってのみ得られる平安を享受し、啓示を受けることができます。祈りと聖文研究は、わたしたちを神殿へと導いてくれます。祈りと聖文研究は、安息日きよを聖く保ちたいという気持ちにしてくれます。祈りと聖文研究は、悪魔の誘惑を避けて克服する助けとなります。

ここで、「彼らは……やって来ると、ひれ伏して木の実を食べた」という聖句に皆さんの注意を促したいと思います。この節を理解するための鍵は、ニーファイ第一書第11章にあります。

「そこでわたしは、その木を見てから御霊みたまに言った。『わたしは、あなたがあらゆるものに勝って貴い木を見せてくださったことが分かります。』

すると御霊はわたしに、『何を望むか』と言われた。

それでわたしは御霊に、『その木の解き明かしを知ることです』と言った。」

天使が「見なさい」と言いました。その後ニーファイは、

示現の中で天使が「神の御子の母である」おとめのマリヤを見ました。その次にニーファイは、「神の小羊」である幼子を腕に抱いたマリヤを見ました。

ここで24節に注目してください。「眺めると、神の御子が人の子らの中に進んで行かれるのが見えた。また多くの人がその足もとに伏して、御子を拝むのが見えた。」(1ニーファイ11:9-24 参照；強調付加)

木は、神の御子であるイエス・キリストを通して示された神の愛を表しています。(1ニーファイ11:21-22 参照)木の所までやって来た第2グループの人々は、第3のグループの人々がしたようには、ひれ伏しませんでした。神の御子の前にいながら、そのことを知らずにいることは可能でしょうか。新約聖書を読みさえすれば、その答えを見つけることができます。救い主は3年の間人々に仕え、教え、奇跡を行われましたが、その御方がどなたであるかを知る人はほとんどいませんでした。

### 聖文を調べる

以下の質問を自分自身に尋ねてみてください。

- わたしが鉄の棒に絶えずしっかりとつかまり、命の木の所まで来たときに、救い主をはっきりと知り、救い主にひれ伏して礼拝するようになるためにはどうすればよいだろうか。
- わたしの目と思いと心の焦点を救い主に当て続けるにはどうすればよいだろうか。
- さらに救い主に似た者となるにはどうすればよいだろうか。

3つの質問全てに対する答えは聖文の中にあります。「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ5:39) 毎日の生活の中で聖文にどっぷりとつかると、重大な罪に抵抗する強さを得、さらに大切なことに、救い主を知るようになるのです。自分の目と思いと心の焦点を救い主に当てるできるようになります。

イエス・キリストを知り、その教えを自分に当てはめ、救い主の模範に従うことにより、わたしたちは救い主に似た者となります。救い主に似た者となると、救い主の前で永遠に生活する候補者となるのです。■

2015年5月12日にブリガム・ヤング大学アイダホ校で行われたデイポーショナルの説教「鉄の棒に絶えずしっかりとつかまる」("Continually Holding Fast to the Rod of Iron") から。全文(英語)は、[web.byui.edu/devotionalsandspeeches](http://web.byui.edu/devotionalsandspeeches) からご覧いただけます。

# モルモンの 奇跡の書

ブリガム・ヤング大学人類学名誉教授  
ジョン・L・ソレンソン

モルモンはニーファイ人の記録を短くまとめるという困難な務めを、効果的かつ奇跡的な方法で成し遂げました。

**モ**ルモンは、ニーファイの民がまさに絶滅しようとしているのを見たとき、彼らについて「小さな短くまとめた記録を書き記〔す〕」作業を始めました（モルモン5:9）。この大仕事が始まったのは、ニーファイ人が最終的にクモラの地に集合する前に最後に宿営した場所でのことでした。ニーファイ人が耐えていた生活状況はまことに厳しいものでした。民は避難民であって、衣食住を安定的に満たすことはできませんでした。モルモンの執筆活動は4年に及んだものと思われます。それは、レーマン人の司令官が合意した最後の戦いのための準備期間でした。しかしいずれにしても、歴史の要約は完了し、記録は最後の戦いのかかり前にクモラの丘に埋められました（モルモン6:6参照）。

モルモン書の作成が困難な偉業であったことは明らかです。特にモルモンが「戦場」という状況下でその務めを果たしながら





ら、最後の戦いに備える軍隊の指揮官を兼務していたことを考慮すればなおさらです。そして当然のことながら、最後に完成したものは不完全な部分がないわけではありません。<sup>1</sup>

### モルモンの働きの限界

モルモンが目的を果たす際に直面した限界について考えてみましょう。

1. 新たな記録の大きさに厳しい制限を設ける必要があった。モロナイが安全な場所に運んで行けるように、持ち運びのできる大きさでなければならなかった。
2. 物理的に何世紀もの間、持ちこたえるようにしなければならなかった。
3. モルモンが利用できる文字体系の中で、その書を書くのにふさわしい簡潔なものは一つしかなかった。
4. 内容は実用的な長さでなければならず、要約している原記録が示す史実に忠実で、なおかつ自分が妥当だと思う文章表現でなければならなかった。
5. 著作期間は短かった。モルモンが600年を超える歴史を全て編さんして書く期間は3年余りであった。手元にある記録史料を全て読み通す時間はなかったと思われる。また、文体を微調整したり編集し直したりする時間がなかったことは明らかである。

以上のような多くの制約がある中で、モルモンは、含める情報と除外する情報をどのようにして選んだのでしょうか。

いろいろな意味で、モルモンがこれほどの短期間に靈感に基づいてモルモン書の制作を成し遂げたことは、ジョセフ・スミスが後にその記録の翻訳を成し遂げたことと同様に、驚くべきかつ称賛に値する事柄でした。

### 文字体系の選択

モルモン書には、記録者が述べたいことを明瞭に表すのが難しいと記しているところが数か所あります（モ

ルモン書ヤコブ4:1; モルモン9:33; エテル12:23 - 25, 40 参照)。モルモンはこう言っています。「わたしたちの言語では書けないことがたくさんある。」(3 ニーフアイ5:18) この意味での「わたしたちの言語」は明らかに、彼らの話し言葉ではなく、文字体系を指します。さらにモロナイは、ヘブライ文字、すなわちアルファベット方式を用いていたら「不完全なところがまったくなかった」であろうと述べています(モルモン9:33)。

ニーフアイ人の歴史家たちは、記録するために用いられた「文字」を「改良エジプト文字」と呼んでいます(モルモン9:32)。この文字体系は、「ユダヤ人が学んできたこととエジプト人の言葉」から成っていました(1 ニーフアイ1:2)。ヘブライ語の音声を書き留めるために、古代パレスチナでは時折、エジプトの象形文字が使われました。<sup>2</sup> ジョセフ・スミスが翻訳した版から文字を写したとされる「アンソンの写し」<sup>3</sup>にある文字の見本から判断すると、その文字は、リーハイの時代に日常的に用いられていたエジプトの文字にそのまま倣ったものではなかったことは明らかです。むしろエジプトのヒエラティック、つまり神官文字に近いものです。すなわち、もっと昔の、別の文字体系であるように見えます。石に刻むのではなく、筆とインクで書くときに当時まだ用いられていたものです。

ヒエラティック体系は、ヘブライ語のアルファベットよりも簡明ですが、もっと曖昧でさまざまな解釈ができるものでした。その文字の大多数は、アルファベットのように音声を書き留めて言葉にしたというよりも、全体的に、複雑な形態素や語(現在は表語文字と呼ばれている)を表しているからです。それぞれの表語文字の意味を覚えなければなりません。この曖昧さが、モロナイが語った「わたしたちの言葉の用法」上の問題の一部であったようです(エテル12:25)。

以下のことも「不完全」のさらなる要因であったかもしれません。すなわち、エジプトのヒエラティックはおもに筆記体で書かれていたため、これを用いて金属の版に記録を刻むということは、記録者が少し手を滑らせると、修正する有効な手立てがなく、文字を読み間違ふ原因となる可能性があるということです。

## 多数の記録

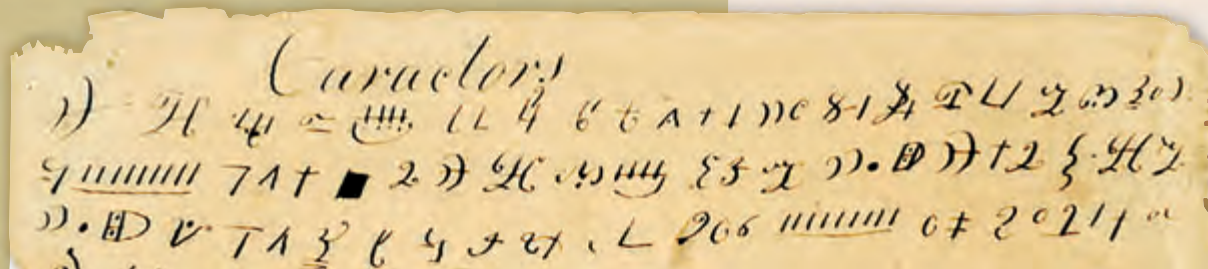
モルモンは記録を作成する際に、ニーフアイの大版に加えて、時折その他の文書も使用しました。何度か「アルマ自身の記録」を用いたことを述べています(アルマ5:2; 7章の前書き; 35:16)。また、「ヒラマンの記録」と「彼の息子たちの記録」も利用しました(ヒラマン書の序文)。またわたしたちは、「ニーフアイの記録」も読んでいます(3 ニーフアイ5:10)。

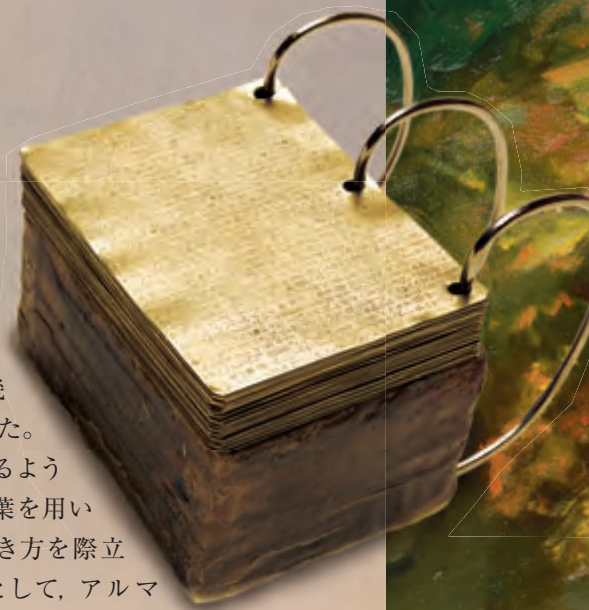
モルモンは時折その他の原書も使いましたが、それが何であったかははっきりと告げていない記録もあります。利用できた補助的な記録として以下のものがあります。

- ベニヤミン王の偉大な説教の原文(モーサヤ2:9 - モーサヤ5章)。
- ゼニフの版にある記録(モーサヤ9 - 22章)。
- ゼラヘムラ、ギデオン、ミレクで宣べ伝えた事柄についてのアルマ自身の記録(アルマ5, 7, 8章)。
- アモナイハでアルマとアミュレクが経験したことの話(アルマ9 - 14章)。
- モーサヤの息子たちと彼らの同僚がレーマン人で行った働きに関する詳細な記録(アルマ17 - 27章)。
- アルマが息子のヒラマン、シブロン、コリアントンに述べた言葉(アルマ36 - 42章)。

モロナイも、エテルが記したヤレド人の歴史の翻訳と要約をエテル書として自ら編さんして加えました。また、父モルモンの教えと手紙の抜粋を含めました(モロナイ7 - 9章)。<sup>4</sup>

最も重要な神聖な記録は、それが永続するように金属に記されました。もっと朽ちやすい物に記された記録はそのうちに読めなくなると考えたのでした(ヤコブ4:2 参照)。紙に書かれた聖文が日々使われていたことは、アモナイハでアルマの言葉を聞いて改心した人々が持っていた聖文が焼き捨てられたことから分かります(アルマ14:8 参照。モーサヤ2:8; 29:4; アルマ63:12 と比較)。金属の版は、それを造るのも(モルモン8:5 参照)、それに刻むのも容易ではないため、数は限られていました。





モルモンは、得られるさまざまな物を利用して、「神が授けてくださった知識と理解に応じて」歴史を書き上げました（モルモンの言葉 1：9）。ニーファイ人に当てたイエスの教えを長々と書きすぎないように主が指示されたときのように、神の助けが時折直接かつ具体的に与えられました（3 ニーファイ 26：6 - 12 参照）。しかし、追加の歴史的情報が啓示されたという記録はありません。

### 「このことから分かるように」

モルモンが何度か述べているように、彼が短くまとめた記録にはニーファイの大版に見られる歴史資料のほんの一部しか採り上げることができませんでした（モルモンの言葉 1：5；3 ニーファイ 5：8；26：6 参照。ヤコブ 3：13 - 14；4：1 も参照）。では、どのようにして資料を選んだのでしょうか。

第1の基準は彼の書に繰り返して述べられています。その目的は、読者、特に将来アメリカの約束の地に住む民、とりわけリーハイの子孫に、父祖リーハイに与えられた約束と預言が彼らにとって意義深いものであることをよく理解させることでした。「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える」（ジェロム 1：9）。実際、アメロンは、モルモンが最も注目するリーハイの声明を、次のように**逆説的に**述べています。「あなたがたはわたしの命令を守らないかぎり、地に栄えることはない。」（オムナイ 1：6 [英文参照]、強調付加）

モルモンは教訓として善と悪の差異を劇的に描き出しています。彼の記録の中の民は従順と美德を強調していますが、他方では対照的にかたくなで悪事を働いています。モルモンは、悪党についてはまったくの悪人であり滅びて当然であることを述べ、英雄についてはほとんどあらゆる点で称賛に値すると述べています。中間の領域にいる人のことはほとんど述べられていません。モルモンは、善と悪は対極にあるということに関して読者の心に少しも疑問を残したくないと思ったのです（モロナイ 7：5 - 19 にあるモルモン自

身の対比の言葉に留意）。靈感に基づく個人的な解釈を加えて、自分の言葉の幾つかを明確にしました。「このことから分かるように」というような言葉を用いて、しばしばこの書き方を際立たせています（例として、アルマ 42：4, 7, 14；ヒラマン 3：23 - 31；6：34 - 40 を参照）。

モルモンとモロナイは、解釈を加えた比類ない歴史として、彼らの「簡潔な」記録を将来の読者に提供しています。歴史家の歴史としてではなく、二人が自分の民と神に長期にわたって困難な奉仕を行う中で学んだ教訓を読者に与えることを意図した力強い道德的メッセージとして、遠い将来の人々のためにそれを残したのです。自分たちが知っていた最も効果的な方法で、利用可能な最良の資料を用いました。彼らの著作に見られるその働きと献身は、わたしたちの時代の全ての人に恩恵をもたらしてきました。

わたしは彼らに深く感謝しています。■

### 注

1. 例えば、モルモン書のタイトルページでモロナイが述べている「誤り」すなわち「人の犯した間違い」として、小さな間違い（現代語で言えば「タイプミス（誤植）」）のある可能性がある。その中には、ニーファイハの町の占領（アルマ 51：26。アルマ 59：5 と対比）についての間違った記載や、同じ出来事が、ある箇所ではさばきつかさの統治第 26 年において（アルマ 56：9）、別の箇所では第 28 年であった（アルマ 53：22 - 23）と述べられている間違いが含まれる。このような間違いは、記録を読む際に重大な問題を引き起こすものではないが、歴史家の務めの人間的一面を示している。
2. ジョン・A・トゥヴェットネス、ステイーブン・D・リックス 共著、「Jewish and Other Semitic Texts Written in Egyptian Characters,」 *Journal of Book of Mormon Studies*, 第 5 巻, 第 2 号 (1996 年), 156 - 163；ジョン・A・トゥヴェットネス, 「Linguistic Implications of the Tel-Arad Ostraca,」 *Newsletter and Proceedings of the Society for Early Historic Archaeology*, 第 127 号 (1971 年) 参照
3. B・H・ロバーツ, *New Witnesses for God*, 全 3 巻 (1909 年), 第 2 巻, 93 - 104 参照
4. 記録のさまざまな情報源の詳細は、モルモン書の「『モルモン書』についての概説」を参照







十二使徒定員会  
クエンティン・L・  
クック長老

# 家族歴史の 業がもたらす 喜び

エリヤの約束は、  
わたしたち一人一人が  
過去と未来の世代に対して  
義務を負っていることを  
明確に示しています。

**家**族歴史およびそれによって可能となった神殿の儀式は救いの業に欠かせない要素であり、死者のためのこの神聖な業に携わることにより、生者の生活に祝福がもたらされることを決して忘れないでください。家族歴史は、わたしたちの信仰と福音への献身を深め、誘惑に対抗する力となり、家族の結びつきをさらに強め、ワードとステークを強くします。

「見つけ、提出し、教える」という家族歴史の取り組みを特に強調したいと思います。見つけるとは、ファミリーサーチウェブサイトや小冊子『わたしの家族—わたしたちを一つにする思い出』<sup>1</sup> を使って、自分の先祖やその子孫の名前を見つけ出すことです。次に、神殿にその名前を**提出する**、または他の人と情報を共有して、その人に名前を持って行ってもらいます。（可能であれば、家族で神殿に行きましょう。）最後に、家族にも同じことをするように**教え**、次に他の人にもそうするよう教えます。

御父の計画は家族に関わるもので、大きな1本の木に象徴されています。木が生長するには、根と枝が必要です。わたしたちも同様に、根、つまり両親や祖父母や他の先祖と、枝、つまり子供や孫や他の子孫と結ばれる必要があります。幾つか心を打つ聖句の中で、家族を表すたとえとして、根と枝がある木が用いられています（イザヤ11：1；モルモン書ヤコブ5章参照）。



エリヤは時の中間に、  
モーセとともに  
変貌の山で  
救い主とペテロ、  
ヤコブ、ヨハネに  
現れました。

### エリヤの使命

旧約聖書の最後の書の中で預言者マラキは、預言者エリヤが「主の大いなる恐るべき日が来る前に」地上に戻って来ることを預言しています。「彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5-6)

天使モロナイは、1823年に17歳のジョセフ・スミスに現れたとき、マラキのこの節を表現を変えて引用しました。モロナイはその9月の晩にこう言っています。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。

……彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」(ジョセフ・スミス—歴史1:38-39)

天使モロナイはマラキの言葉を少年ジョセ

フに4度繰り返して言いました。

この偉大な預言者エリヤについてわたしたちが知っていることが、全てジョセフ・スミスが聖書から得た知識だと想像してみてください。その書から、エリヤはキリストがお生まれになる900年近く前の困難な時代に生きた人だということが分かります。イスラエルではアハブとイゼベルという邪悪な王と女王が悪政を敷き、臣下たちと一緒にバアルという偽りの神を拝み、主の預言者など、人々を殺害していました。

エリヤは卓越した預言者でした。世界中のクリスチャンとユダヤ人は旧約聖書のエリヤに関する記述を受け入れています。

聖文には、エリヤが奇跡的に命を救われたことや、夫に先立たれた女性を飢饉から救い、その死んだ息子を生き返らせた話が記されています(列王上17章参照)。また、エリヤは、主の「静かな細い声」が、エホバに献身しているのが彼一人だけではないと伝えたと時の様子を書いています(列王上19:4-14参照)。そして最後に、死を味わうことなく

天に連れて行かれました(列王下2:7-12 参照)。

現代の啓示を通してようやく、エリヤの全ての役割が明らかになりました。エリヤはイエス・キリストの時代の前にメルキゼデク神権の結び固めの力を持っていた最後の預言者でした。時の中間には、モーセとともに変貌の山で、救い主とペテロ、ヤコブ、ヨハネに現れました(マタイ17:1-4; マルコ9:2-5 参照)。回復の重要な出来事として、エリヤは1836年、カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れました。この神権時代に家族を結び固めるための鍵がこのとき回復され、マラキの預言が成就したのです(教義と聖約110:13-16 参照)。エリヤがこの神権時代に送られたことで、完全な救いが生者と死者の双方にもたらされました。

エリヤの使命を助けているのは、時折、エリヤの霊と呼ばれるものです。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長はエリヤの霊について、「家族が神聖な起源を有していることを証する聖霊の現れ」<sup>2</sup>と教えています。家族歴史と神殿の業に関連する聖霊の現れをしばしばエリヤの霊と呼ぶのはこのためです。

既に亡くなった人々について、教義と聖約に「彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない」と記されています(教義と聖約128:18)。これはどのような意味でしょうか。聖句に答えがあります。

「さて、わたしの親愛なる兄弟姉妹たち、わたしはあなたがたに断言します。これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは、パウロが先祖について、わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」(教義と聖約128:15, 強調付加)

「彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だ」とは、全人類の救いは、大きな木の根と枝のように、互いに依存し、互いに結びついているということです。

## ファミリーツリーの集いを開く

家族に対する責任と望みは、わたしたちの優先事項の中でも最上位にあるべきです。そうすることでわたしたちの神聖な行く末は守られます。家族が家族歴史の業を始めるきっかけとして、わたしが「ファミリーツリーの集い」と呼んでいる会を開くようお勧めします。この集いは繰り返し行うべきです。こうした集まりに、各自が、祖父母や両親が大切にしていた物など、家族の歴史を示す今も残っているもの、体験談、写真などを持ち寄るとよいでしょう。『わたしの家族——わたしたちを一つにする思い出』を使って家族の情報や体験談、写真を記録し、FamilySearch.orgのファミリーツリーにアップロードするとよいでしょう。

しかし、一度きりではいけません。生涯熱心に取り組むべきです。家族で安息日を守るためにさらに実りある方法を探している人にとって、この神聖な業を速めることは肥沃な土壌となります。

家族歴史の中心は家庭です。わたしたちは、若者のこの業に対する愛を育む必要があります。多くの青少年の心は



既に先祖に向いており、家族や親族の出身地や、彼らがどのような生活を送ったかなどについて、喜んで学んでいます。時間を忘れるほどこの業を心から楽しみ、もっとやりたいのに残念だと思いながら中断する人もいます。

若い人たちは体験談や写真が大好きですし、これらの思い出を FamilySearch.org のファミリーツリーに保存するための技術や知識も容易に習得します。FamilySearch.org に最近導入された、記録のヒントツールを使って、神殿の儀式を必要としている家族を見つけることができます。<sup>3</sup>

家族に関するこの記録のヒントツールは、索引作成に取り組む世界中の教会員の手で支えられています。これらの何百万もの記録は、まだ家族に結びつけられていない先祖や、神殿で儀式を受ける必要のある先祖を見つけるのに役立ちます。Ancestry.com や Findmypast.com, MyHeritage.com などのウェブサイトもヒント機能を備えており、世界中のたくさんの記録を保持しています。教会員は無料でこれらのサイトにアクセスできます。



家族歴史の中心は家庭ですが、教会は今後も家族歴史センターを提供します。このセンターで、家族で先祖を見つけ、家でインターネットを使えなくても、ここでインターネットにアクセスできます。

12歳以上の全てのふさわしい教会員は、一人または二人の教会指導者から面接を受けた後、限定推薦状を取得して死者のためのバプテスマを受けることができます。この中には全ての新会員も含まれています。

どの神殿でも提示できる、署名入りの推薦状を持てることは喜びです。推薦状には神聖な守りが伴います。十二使徒定員会会長であったボイド・K・パッカー会長（1924 – 2015年）はこう述べています。

「神殿の業と、それを支える家族歴史の探究の仕事ほど、この教会にとって大きな守りとなるものはありません。またいかなる業もこの業ほどに人の霊を磨き、人に力を与えることはできません。加えて、この業ほど高い標準が要求される業もありません。

神殿の業はわたしたち個人にとっても、全体にとっても盾となり、守りとなります。」<sup>4</sup>

### 先祖に対するわたしたちの義務

家族歴史は家族に関わる事柄ですが、人それぞれに状況は異なります。先祖の多くは、結婚することなく、あるいは子供をもうけないまま亡くなっています。離婚した人もいれば、何度か結婚した人もいます。障がいのある子供がいた人や、子供を早くに亡くした人も多くいます。誰でもそれなりの体験をしています。

生者であろうと死者であろうと、自分の行動に責任を負う人は全て、これらの神聖な神殿の儀式の祝福を必要としており、家族がそれらの祝福を受けられるよう、わたしたちは助けることができます。独身者であっても、伴侶が教会にあまり活発でなくても、自分自身があまり活発でない、あるいは教会員でなくても、それは問題ではありません。誰でも人の救いの助け手となることができるのです。この業以上に重要で、満足感の得られる、栄えある業はありません。

この業を導いておられるのは、主、すなわち救い主イエスキリストです。主はその死後、死者を捕らえていた獄の扉を開かれました。



「主は義人の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、暗闇の中にいる者たち、すなわちすべての人の霊のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。……

選ばれた使者たちは、主の恵みの日を告げ知らせ、束縛されている囚われ人、すなわち、自分の罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての人に自由を宣言するために出て行った。」  
(教義と聖約 138:30 - 31)

教会の教えは簡明ですが、深遠です。鮮やかな弁舌や複雑な教義は必要ありません。必要なのは、打ち砕かれた心と悔いる霊、そして救い主に従う決意です。

主イエス・キリストの使徒として約束します。時間と現世の限界の先を考えながら自分ではなすすべのない人を助けるならば、家族内のさらなる親密さと喜び、また主の務めを忠実に果たす者に与えられる神聖な守りが得られます。

エリヤの約束は、わたしたち一人一人が過去と未来の世代に対して義務を負っていることを明確に示しています。両親の皆さんや青少年、子供たちが、死者のための神聖な業に携わるといふ天から与えられた義務を果たすときに、皆さんが喜びを見だし、生活の他のあらゆる面に祝福がもたらされますように。■

2015年2月14日にユタ州ソルトレーク・シティーで開かれた2015年ルーツテック家族歴史大会での説教“*Our Father's Plan Is about Families*”（「御父の計画は家族に関わるもの」）より。2016年ルーツテック大会について詳しくは [RootsTech.org](http://RootsTech.org) をご覧ください。

注

1. 小冊子『わたしの家族』については [familysearch.org/campaign/myfamily](http://familysearch.org/campaign/myfamily) をご覧ください。
2. ラッセル・M・ネルソン「新たな収穫の時」『聖徒の道』1998年7月号、38
3. 「記録のヒント」機能を使うと、「先祖に関する〔ファミリーサーチの〕記録の広範な検索の結果」[familysearch.org/blog/en/give-research-boost-record-hints/](http://familysearch.org/blog/en/give-research-boost-record-hints/) が表示される。
4. ボイド・K・バックナー「聖なる神殿」『リアホナ』2010年10月号、35

この業を導いておられるのは、主、すなわち救い主イエス・キリストです。主はその死後、死者を捕らえていた獄の扉を開かれました。

# 子供が教会を 離れるとき

子供が親の賛成できない道を選んだとしても、  
親はその子に選択の自由があるという原則を受け入れることができます。

ロビン・ゼンガー・ベーカー

**成**人した娘が初めて住む街へ引っ越してから数週間がたちました。娘が教会へ行かないので、わたしは日曜が来るたびに同じ不安に駆られました。娘はいつか教会に戻るのでしょうか。わたしは思いつく策を全て試しました。励ます、理論で攻める、懇願する、モーニングコールを掛ける、祈る、断食する、娘のビショップに電話して相談するなど、ありとあらゆる手を尽くしました。2,000 マイル (3,220 キロ) 離れた場所に住んでいたのに、一緒に教会に行くことは難しい状況でしたが、それさえも試しました。

ほんの少し状況を変えてあげられれば、娘は元の霊的な道を再び歩むだろうとわたしはずっと思い込んでいました。訪問教師かビショップ、友達、家族など、誰かが、教会に戻るきっかけとなる言葉や働き掛けをしてくれれば、娘は戻るのではないかと思いました。しかし、うまくいきませんでした。わたしはすっかり悩んでしまい、親として娘をどうすることもできないという罪悪感と苦惱でいっぱいになりました。

同じ思いをしている親がたくさんいます。子供が福音の道を離れると、忠実に教会へ通い続ける親がそれに対処することはとてもつらい場合があります。ある母親は娘の選択に憤慨するあまり、呼吸をするのもつらいと言いました。ある父親は、自分や自分の生き方を子供たちに否定されているように感じたと言っています。ある若い母親は、幼い子

供たちがいつか疑問を抱いて教会に行かなくなるかもしれないと心配しています。

家族が教会を離れる決断をしたとき、こういった心の苦しみにどう対処すればよいのでしょうか。できることが幾つかあります。

## 苦しみを経験した人から学ぶ

聖典には、きわめて義にかなった家族でも反抗的な子供のことで苦勞する話が出てきます。サライアとリーハイには、親の教えを捨てた子供がいました (1 ニーフアイ 2:8 - 12 参照)。アダムとエバも同じでした (創世 4:8 参照)。天の両親でさえ、霊の子供の3分の1が別の道を選んだことで悲しみを味わわれました (教義と聖約 29:36 参照)。幸福の計画には選択の自由があります。つまり、義にかなった家族の一員であっても、福音の原則を受け入れないという選択をすることがあるのです。わたしたちは、聖典に出てくる、苦悩を味わった家族の経験から慰めを得ることができます。選択の自由や相手の身になって考えることがさらによく分かるようになり、その理解によって癒やしと前進する力が得られます。

## 自分の子供であると同時に、神の子供であることを認める

10 代の息子が自分の信じている宗教に疑問を抱き始めたとき、ある母親は罪悪感や挫折感に打ちのめされました。



どう育てるべきだったのかと悩んでいるとき、ある啓示を通して主の憐れみを感じました。「彼の親はあなただけでは<sup>あわ</sup>ない。わたしはあなた以上に彼を愛しており、彼や迷い出た他の子供たちについて、罪悪感を抱いていない。」そのときから、この母親は罪悪感を捨てて、息子がすばらしい神の子供であるということに心を向けられるようになりました。

### 成功に心を開ける

「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」<sup>1</sup> という教えをきちんと理解していないために苦しむ親がいます。成功と失敗を定義することは容易ではありません。七十人であったジョン・K・カーマック長老はこのように説明しています。「この宣言は両親が子供たちと交わり、子供たちと一緒にいるよう奨励することを目的としているのであって、多くの時間や努力そして犠牲によって親としての務めを果たしてきながらも、望むような成果を刈り取るができないでいる両親を失敗者とするような意味ではありません。」<sup>2</sup> 家族が選択の自由を使ってどのような道を選ぼうと、彼らが選択の自由の祝福を受けているという原則を受け入れるべきです。

### 期待を調整する

わたしたちは、自分たちの選んだ道を家族にも歩んでほしいと願うものですが、福音の祝福を受けるためには、本人がそれを選ばなければなりません。カーマック長老は、親は子供に選択の自由があることを否定して「苦悩してばかりいるのではなく、あるがままの彼らを受け入れて、現在抱えている期待やアプローチの方法を調整」<sup>3</sup> する必要があるかもしれないと言っています。

ある母親は、息子が伝道に出ないことを知って、困惑し、悲しみました。そのうちあることに気づきました。息子が伝道に出なければ自分は幸福になれないという考えを捨てる必要があると分かったのです。「息子の人生の主役はわたしではないことに、やっと気づくことができました」と彼女は語ります。「子供の人生はその子の人生です。わたしは母親にすぎず、子供はわたしの所有物ではないのです。」

### どう対処すべきか理解する

多くの親は祈り、聖文研究、神殿参入を通して慰めを見だし、正しい物の見方を保っています。ある母親は、祈りを

通して、自分の子供がどれほど天の御父にとって貴い存在であるか思い出すようにという教えを受けました。その教えにより、心の痛みが和らいだと言います。何をし、何を言うべきか、祈ることではっきりと分かることができます。また、祈りは慰めを見いだす助けにもなります。

聖典には、良くない選択をした人のことや、家族がどう対処したかについて書かれています。ある親はこう言っています。「聖典に登場するのが非の打ちどころのない家族の話ばかりでなくてよかったです。さもなければ、落胆のあまり、わたしは努力さえできなくなったかもしれません。」息子アルマの話を読むと、親の義にかかった祈りが確かに聞き届けられることが分かり、慰められます（モーサヤ 27：14 参照）。放蕩息子<sup>ほうとう</sup>のたとえからは、離れていった人が戻ったときの喜びが分かります（ルカ 15：20 - 24）。

神殿に参入することも、家族の問題にどう対処したらよいかははっきり理解するうえで助けとなります。十二使徒定員会のジョン・A・ウイツォー長老（1872 - 1952 年）はこのように述べています。「わたしは、……忙しく働いている人は、他のどこよりも主の宮において……いろいろな問題をもっとよく、また速やかに解決できると信じています。……神殿の内外を問わず、最も予期しないときに啓示として、心を悩ませている問題への解決が与えられるからです。」<sup>4</sup> 神殿に参入する親は、心や思いが整えられて、求める平安を感じやすくなるのです。

### 愛を示し続ける

リーハイとサライアは間違いなく、サムやニーファイ、ヤコブ、ヨセフと同じようにレーマンとレムエルを愛していたことでしょう。信仰や生活様式が同じなら家族とうまくやっていくのはより易しいことですが、そうでなくても家族に愛を示せるようになることも大切です。

若い頃に教会に行くのをやめてしまったある女性は、家族が愛を示し続けてくれたことについて、こんな経験談を話してくれました。彼女の家族は大きな、末日聖徒の一族で、伝道に出ることが目に見える形で祝われました。祖母の家では、居間の壁に、一族から伝道に出た宣教師全員の写真が飾られていました。そこは「家族という宇宙の中心」だったと彼女は言います。自分が決して伝道に出ないつもりだったため、どれほど世の中で善いことをしても、祖母の家の壁





家族をあるがままに愛し続けながらも、彼らが再び福音を中心とした生活をするという希望を持ち続けることができます。

に自分の写真が飾られることはないと思っていました。

30歳のとき、合衆国平和部隊に入ることを決意しました。マダガスカルへ行って、全力で務めを果たしました。任務の途中で、自分の写真を祖母が壁に飾ってくれていたことを耳にしました。平和部隊の任務が終わったとき、祖母と彼女は抱き合い、涙を流しました。「これだって立派な務めですもの」と祖母は言いました。家に宣教師の写真飾った壁があろうとなかろうと、家族全員に、彼らを愛し、大切に思っていることを示す方法はいくらでもあります。

### 希望を持ち続ける

家族をあるがままに愛し続けながらも、彼らが再び福音を中心とした生活をするという希望を持ち続けることができます。家族がしばらくの間迷っていても、後になって戻って来る場合がよくあります。放蕩息子のように、以前の生活から良いメッセージや原則を受け取っていたことに気づき、再びその大切さを認識するのです。実際のところ、預言者たちは、子供が親に結び固められていれば、成長する間に受けた義になかった教を思い出して、いつの日か戻って来ると約束しています。<sup>5</sup> そのような約束のおかげで、家族に大きな期待を抱けるのです。

### 常に永遠の観点から物事を見る

家族の人生にどんなことが待ち構えているかは分からないということを覚えておかなければなりません。反抗的な10代の子供を持つある父親は、息子たちが現在義になかった生活をしていなくても、悲惨な将来を思い描くべきではないことを学んだと言っています。大管長会第二顧問のデー

ター・F・ウークトドルフ管長は、人はときどき物語の結末がもう決まっていると思いがちだが、実際は物語は半ばまでしか進んでいないのだと言っています。<sup>6</sup> 神の時の計り方はわたしたちと大きく異なっており、それぞれの人生がどのような結末を迎えるかは分からないのです。

家族が後になって戻って来ることが分かっていたら、現在取る行動は変わってこないでしょうか。一層の平安と愛、そして受け入れる心を持って生活するのではないのでしょうか。物語が幸福な結末を迎えるよう努力する際に、次のことを覚えていると役立ちます。

すなわち、わたしたちは怒りや恐れではなく、平安と愛によって愛する家族に働きかけることを選べるのです。パウロが記したように、「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なので」(2テモテ1:7)。カーマック長老はこのように勧めています。「決して諦めない[ください]。あなたが今、娘や息子に手を伸ばして彼らの心をつかむことができないとしても、少なくとも彼らに対して働きかけ、愛し続けることだけはできるはずです。……罪の意識や絶望感から気持ちが萎えることのないようにしてください。霊的な助けと平安を求めてください。気持ちを強くし、また勇気を持ってください。やがてその試練を乗り越えることができます。」<sup>7</sup>

わたしの娘はまだ教会に戻っていません。しかし、わたしたちの目標ははっきりしています。娘もわたしも努力し続けて、近い関係を保っているのです。娘とよく話しますし、娘にとって、末日聖徒の家庭で育ったことが、親切で自制心のある思慮深い人になるうえで役立っていることをわたしは知っています。娘が今歩んでいる道は、わたしからは決して勧めない道ですが、その道中でさまざまなことを一緒に学んでいることに感謝します。そして、天へ戻る道においてそれぞれが今いる場所を受け入れることで、わたしは心の平安を見いだしています。■

筆者はアメリカ合衆国マサチューセッツ州在住です。

### 注

1. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1964年4月, 5. J・E・マックカロク, *Home: The Savior of Civilization* (1924年), 42から引用
2. ジョン・K・カーマック「子供が道から迷い出たとき」『聖徒の道』1999年3月号, 31
3. ジョン・K・カーマック「子供が道から迷い出たとき」32-33
4. ジョン・A・ウイツォー, "Temple Worship", *The Utah Genealogical and Historical Magazine*, 第22巻(1921年), 63-64. デビッド・B・ヘイト「神殿と神殿の業」『聖徒の道』1991年1月号, 64で引用
5. "Hope for Parents of Wayward Children," *Ensign*, 2002年9月号, 11参照
6. デイター・F・ウークトドルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号, 42-45参照
7. ジョン・K・カーマック「子供が道から迷い出たとき」34, 37

効果的な  
話し合い  
を指揮する



**福**音の話し合いを進めるとき、自分をオーケストラの指揮者であると考えたとよいかもしれません。あなたの生徒はコンサートを聴きにきた聴衆ではなく、それぞれの役割を果たしながら音楽を創り上げるオーケストラの団員です。指揮者は演奏家たちをまとめて一人一人から最高のものを引き出し、音楽を感動的な芸術にするのを助けます。

福音に関する有意義な話し合いは、美しい音楽のようなものです。良い話し合いができると、テーマとなっている福音の教義に対する理解が深まり、福音の真理を実践したいという純粋な望みが生まれます。

**有意義な  
福音の話し合いは、  
すばらしい音楽を  
指揮することに  
たとえられるでしょう。  
教師の大切な役割の一つは、  
学習者が御霊を感じて  
自分で真理を見いだす機会を  
得られるように、  
話し合いを導くことです。**

話し合いをより良いものにするための原則には次のようなものがあります。

**レッスンではなく、人を教える。**あなたの関心が、レッスンをすることよりも生徒に注がれていると生徒が感じたとき、彼らはもっと積極的に話し合いに参加したいと思うようになります。生徒が教師に望んでいるのは事実を教えることだけではありません。生徒の信仰を強め、また高めるために、その教師がよく準備してきていると感じたいと思っています。教師や他の生徒から愛されていると感じている生徒は、自分が理解していることや経験をより積極的に伝えようとします。

**靈感を招く。**ともに過ごす時間は、あなたとあなたが教える人たちが啓示を受ける機会であって、知識を伝えるだけの時間ではありません。教師の大切な役割の一つは、学習者が御霊を感じて自分で真理を見いだす機会を得られるように、話し合いを導くことです。啓示が与えられると、教師も生徒も全員が教化されてともに喜ぶのです(教義と聖約 50:22 参照)。御霊によって学んでいるときも、そしてもちろん御霊によって教えているときも、話し合いが人々の心を教化しているのを知ることができます。

#### 教師のために —— 「時間内に全部教えることができるだろうか」

レッスン教材、聖文、勉強を通して理解したこと、これら全ては本当に価値あるものです。しかし多くの場合、時間をかけて研究した全部を限られた時間内に教えることはできません。あなたの責任は、学び得たことを全部伝えることではなく、あなたがレッスンの準備の過程で経験したと同じように、生徒が自分で真理を見つけることができるようにレッスンの時間を管理することです。助けを求めて祈ってください。そうすれば、聖霊は何に焦点を当てるべきか教えてくださいます。幾つかの真理に的を絞ることで、話し合いはもっと有意義になり、教えを受ける人たちの心により深く浸透していきます。

**全ての生徒に参加を促す。**参加するとは必ずしも、全員が質問の答えを声に出して発言することではありません。ただ一生懸命に聞いたり、あるいはノートを取ったりすることを好む人もいます。またある人は、時間を取ってじっくり考え、準備ができれば、意見を発表したいと思っています。事前に何人かの生徒に連絡して、ある特定のテーマについて意見を発表できるよう準備をしてクラスに来るよう頼んでもよいでしょう。

出席者が話し合いに参加できるよう助ける方法は他にも幾つかあります。例えば、以下のようなことができるでしょう。

- 質問にどう答えるかよく考えるように伝えてから、答えを発表するように言う。
- まず答えを紙に書いてもらい、それから、何人かに答えを発表するように言う。
- 隣の人同士、あるいは少数数のグループ内で答えを出し合うように言う。

時には、グループの一人が時間を独占して話すこともあります。そのようなときは、「では、まだ意見を述べていない人の話を聞きましょう」と言うといいでしょう。場合によってはその人と個人的に会って、発言してくれることに感謝の

気持ちを伝えてから、他の参加者に発言を促すことの大切さを説明することが必要かもしれません。

**沈黙を恐れない。**誰も発言しないと、話し合いが途切れてしまったように感じるかもしれませんが、生徒にとっては考えるための貴重な時間にもなります。

**意味のある質問をする。**聖句や福音の原則の意味を深く考えるきっかけとなる質問をしてください。学んでいる真理を理解できるように生徒を助け、実践を促す質問を考えながらレッスンの準備をします。良い質問を幾つかすると、大きな効果が出るでしょう。

**注意深く耳を傾ける。**教師が次に何を言おうかと気にするあまり、生徒の発言に注意を向けていないことがよくあります。生徒の意見を真剣に聞くことで、生徒たちは自分が大切に思われていると感じ、もっと積極的に参加するようになります。トーマス・S・モンソン大管長はこう教えました。「[一人一人に] 語るべき物語があるということです。ですから、耳を傾けるということは、わたしたちが教え、学ぶに際して、欠かせない要素なのです。」(『偉大な教師の模範』『リアホナ』2007年6月号, 76)

**フォローアップの質問をする。**生徒が自分の理解していることや経験を話しているとき、彼らにはもっと話すことがあ



教師や  
他の生徒から  
愛されていると  
感じている生徒は、  
自分が理解していることや  
経験をより積極的に  
伝えようとします。

るのではないかと感じることもあるでしょう。次のような質問をすることを考えてみてください——それに関して、あなたにとって大切なことは何ですか。あなたの生活でこのようなことを見たことがありますか。それは今のわたしたちにとってどのような意味がありますか。このことに関して、他に誰か意見はありませんか。このことに関連して何か意見はありませんか。この真理を教えている聖句には、他にどのようなものがありますか。

**返答したことを受け止める。**誰か返答したときは、何らかの方法でそれを受け止める必要があります。受け止めるには、意見を言ってくれたことを感謝したり、意見に関連した質問をするとよいでしょう。

**教義を純粹なままに保つ。**福音を教える第一の目標は、ただ良い話し合いをすることではないことを忘れないでくださ

い。そうではなく、教義を学ぶことで心に変化が起こり、改心できることが目標なのです。話し合いにおけるあなたの役割の一つは、確実に真の教義が教えられるようにすることです。

教義的に誤っている発言があったら、教義を正しく伝えるのがあなたの責任です。答えの中の正しい部分から話を進め、聖句や総大会からの教えを伝えたり、証<sup>あかし</sup>を述べたりしてください。

こうした方法を活用することで、すばらしい福音の話し合いをすることができます。ただ時間潰しのために話し合いを利用するべきではありません。生徒たちが個人の啓示を受け、互いの一致を強め、イエス・キリストの福音の理解を深めることができるような、効果的な話し合いを進めてください。■

## 学習者へ——あなたの意見が大切です

**福**音について良い話し合いをすることは、教師とともにあなたの責任でもあります。次のような場面でどうしようか迷ったことがあったでしょう。

言いたいことはあっても、教師は発言を求めている。教師の言葉を遮ってもいいだろうか。

頃合いを見計らって教師の目を捕らえ、発言したい気持ちがあることを知らせるとよいでしょう。分かち合いたいという靈感を受けたら、最善を尽くしてその促しに従って行動してください。

自分の発言に価値があるかどうかよく分からない。本当に手を挙げていいのだろうか。

あなたの考え方や経験は、他の人にはないものかもしれません。レッスンの予習をしているときに、個人的に深い理解力が得られ、そのことが他の生徒にとって祝福となるかもしれません。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老（1928 - 2015年）は、福音の話し合いで手を挙げることについて、それは「聖靈に、学ぶ意欲があることを知らせることです」と教えました。あなたの

意見がテーマに沿った適切なものであり、時間が許すなら、意見を伝えてください。スコット長老は次のように説明しました。「発言することで発言者は、御霊に導かれている体験をすることができます。」（“To Learn and to Teach More Effectively” [プリガム・ヤング大学教育週間でのディポーショナル, 2007年8月21日, 5, speeches.byu.edu (英語)]）

大勢の人の前で話をするのが怖いです。どうしたらいいですか。

恐怖心を克服するには、小さなことから始めるとよいでしょう。聖句や引用文を読むことを進んで引き受けるように努力してください。そのようにできたら、次に質問に答えたり、考えを発表できる機会を探したりします。積極的に発言しようとする気持ちを表すことで、話す勇気と言葉が祝福されます。「口を開く」ときに、「口は満たされ」ことが分かります（教義と聖約 33 : 10）。

発言することが簡単にできる人は、再度自分の考えを発表するのではなく、他の誰かが発言できるように励ます方法がないかどうか、自分に問いかけてみるとよいでしょう。

# 再婚

## 忍耐と愛の冒険



二つの家族を一つにまとめるには  
2倍の忍耐が必要ですが、  
2倍の愛を生み出すことも可能です。

ハイディ・エルヤボ・モレル・アンデルセン

**実** 際自分の身に降りかかるまで、離婚という言葉  
考えたことすらありませんでした。長い間、結婚  
しているかどうか尋ねられるたびに、その言葉の  
持つ否定的なニュアンスに身が縮む思いがしていました。

「離婚したんです。」そう口に出して  
言うのが本当につらく、まるで口にしてはならない言葉でも  
言っているかのように感じました。

けれども、それが自分の現実でした。わたしはそんな状  
況をなかなか受け入れられずにいたのです。「いい人が見つ  
かるわよ」と友人たちはよく言っていました。でも、わたしは  
再婚について関心も願望もありませんでした。4人の子供  
の世話に追われていたからです。

ところが、将来への期待も計画も持たずに過ごしていたあ  
る日、アルンフィンに出会ったのです。驚いたことに、彼とは

とても気が合い、わたしは会うごとに彼と一緒にいるのが楽しくなっていました。彼は頭がよく、ハンサムで、陽気な人でした。彼から結婚を申し込まれたとき、どんな将来が待ち受けているのか知る由もありませんでしたが、彼とその将来を一緒に築きたいと望んでいることは確かでした。アルンフィンが言う「諸問題の解決」にじっくり時間をかけた後、わたしたちは1997年の秋にスウェーデン・ストックホルム神殿で結婚しました。

40歳近くになってからの新婚生活は、最初のときとは違

一致しているわけではないみたいだね」と言いました。40年間もそれぞれで習慣を積み重ね、自分なりのやり方でやって来たのですから、当然です。最初の結婚のとき、わたしは19歳でした。そのときからずっとさまざまな日常行動や自分なりのやり方を積み重ねてきたのです。アルンフィンとわたしは、いろいろな意見があっていいし、むしろその方が健全だという結論に至りました。必ずしも、どちらかが正しいとか間違っているというわけではないのです。意見というのはさまざまな人生経験を通して形作られるものです。

相手のことを理解するには、敬意を持ち耳を傾けることが鍵となるのです。

わたしたちはまた、二人の生活を上手に織り混ぜるにはどうしたらよいか、お互いに理解しようと努めました。どこに住み、どう家計を賄い、そして祝日をどのような伝統で祝うのか、話し合いました。その他にも幾つか解決しなければならない問題も出てきましたが、振り返って考えると、今から見たらどうでもよいように思えるものもありました。わたしたちの目標は、家庭における調和と愛でした。

わたしにとって特に難しかったのが、家族にもう一人の母親が関わっていたことでした。アルンフィンの前妻はすばらしい母親で、子供たちの幸福について関心を持っていました。休暇や週末は彼女と一緒に計画していたため、わたしは自分自身の生活に発言権がないように感じたこともありました。

でも、新たな生活に慣れるのに苦労したのはアルンフィンの方だったかもしれ

れません。彼は10代の2人を含む4人の子供のいる家に引っ越して来たのですが、子供たちが彼には経験のないほど荒っぽく、彼が望んでいたものとは少々違う育てられ方をしていたからです。

### 道は違ってても答えは同じ

そしてある晩、わたしが考える力もなくなっていた遅い時間に、アルンフィンがわたしに知能テストをしようとチャレンジしてきたのです。彼は食卓の片側に座り、方程式や関数を用いて質問の答えを導き出そうとしました。わたしはテーブ

いました。恋に落ちるのは以前と同じようにすばらしい経験でしたし、二人の新しい関係にわくわくする気持ちにもそれほど違いはありませんでした。けれども、前とは違い、わたしたちには二人の元伴侶と、言うことを聞かない犬、騒々しい鳥、それに3歳から17歳までの子供が9人がいました。幸運にも、新たな恋愛のときめきのおかげで、その後の困難に満ちた日々を乗り切ることができました。

### 理解するための鍵

ある日、アルンフィンが「ぼくたちの意見は必ずしもいつも



ルの反対側に座り、図を描いて出された問題を解こうとしていました。終わって答えを比べてみると、何と同じ答えだったのです。そのとき、わたしはこのテストが二人で一緒に過ごす生活に似ていることに気づきました。

説明しましょう。彼のやり方とわたしのやり方は違います。でも、二人には共通の目標があります。そこに到達する方法は違っていても、目標は同じなのです。その目標に到達する方法は知能テストに似ています。彼は方程式を使い、わたしは図を描きますが、二人とも同じ答えにたどり着くのです。

わたしは弁護士という彼の仕事が自分には絶対できないと分かっていますし、彼にも作家兼水彩画家というわたしの仕事は難しいと思います。わたしのやり方とは違うやり方をする彼を見ていららるのでなく、そんな彼をいとおしいと思うことが大切だと分かってきました。違いがあることを認めさえすれば、違いというものは実に楽しい学びの経験にもなり得るのです。ある日、わたしはアルンフィンに言いました。「もしあなたがわたしに何かを教えてくれて、わたしもあなたに何かを教えられたら、いつか二人でうまくできるようになるわよ。」両者に学ぼうという姿勢がなければなりませんし、それには終わりはありません。褒めるという言葉がキーワードになりました。

父親と母親がまるで違う性格なら、それぞれの子供たち

も確実に違った性格の持ち主になります。わたしたちは相当な覚悟で毎日の問題に取り組みました。それは食習慣から、服装のスタイル、就寝時間、お手伝いなど、枚挙にいとまがないほどでした。長い間、子供たちは「わたしの子供」「あなたの子供」と言われ続け、一つの家族にされたことをいつも喜んでばかりいたわけではありません。

一番上の子は、どうせ自分は遠からず家を出るのだから、お母さんが幸せならいいと言いました。次の2人の娘たちはお互いに気に入らないようすでした。息子の1人は、2週に1度来る義理の兄弟のために自分の寝室を明け渡し、ソファで寝ました。彼はそのことについて一言<sup>ひとこと</sup>も不平を言いませんでした。本当にいい子でした。

### 愛する人々のために居場所を作る

愛する人々のためには、いつでも居場所があります。わたしたちは居間の隣にある応接室を親の避難場所にし、子供たちを2階の寝室にいられるようにしました。テレビを2台、浴室兼トイレを二つにしたのはぜいたくからではなく、必要があつてのことでした。1年に1度、新婚の両親だけで数日過ごすことにしたのも、家族として成功するために必要不可欠な将来のための投資でした。

週末やその他の行事は事前に計画しました。食事、ゲーム、そして活動の大部分は、子供たちの好みに合わせました。アルンフィンの5人の子供は週日は母親のところにいるため、わたしはなるべく彼女の気持ちを大切にしたいと考えていましたが、同時に、子供たちが父親に会いに来る時間を楽しく過ごせるよう配慮しました。そのために、時には気に障ることがあってもささいなことには目をつぶり、子供たちが楽しく過ごせるように、もっと大切なことに焦点を当てなければなら



3人の孫とのシャボン玉遊び。  
子供たちは成長して家を出ていますが、  
いつ訪ねて来ても  
歓迎してもらえることを知っています。



毎年夏、なるべく多くの子供たちと一緒にスウェーデン・ストックホルム神殿に参入するのが、家族の伝統になっています。去年はアルンフィンの90歳になる母が両親との結び固めを受けられるように、一緒に10時間の道のりを車で行きました。

ないこともありました。わたしは忍耐と愛を実践しました。そしてさらに忍耐を加え、そこにたくさんのユーモアを上乘せしました。

混乱だらけの日曜の朝は、大きな試練でした。わたしたちは美しいクラシック音楽を流して雰囲気を作るように努めました。その間に、子供たちを二つあるトイレに次から次へと送り込み、カウベル（牛の首につす鈴）を鳴らしておいしい朝食に集めたものです。それでも、安息日の精神を守るうえで、全員を家から出してミニバンに乗せて間に合うように教会まで連れて行くのは、大きな試練でした。家に帰って、おいしい夕食を食べる頃には、皆落ち着いて一緒にゲームを楽しむことができました。

教会で教えられるプログラムやレッスンには多くの知恵があります。家族の祈り、家庭の夕べ、そして福音の原則についての話し合いは、時間をかけて努力する価値があります。福音はわたしたちに喜びをもたらし、家族というものがいかに大切に価値あるものか理解できるよう助けてくれました。

わたしたちは一緒に多くの新しい伝統を築きましたが、以前の生活からも幾つか伝統を残しました。毎夏、わたしたちはなるべく多くの子供たちをスウェーデン・ストックホルム神殿に連れて行き、神殿の南にあるキャンプ場に宿泊します。それは楽しい伝統になり、今では、結婚した子供たちも自分の家族の伝統にしています。

今、子供たちからデートや結婚について助言を求められると、どちらかがジョギングが好きで、もう片方がバレエが大好きでも問題ではない、とわたしは答えます。最も大切なのは、救い主に仕えたいという情熱と、永遠の家族という目標に向かって努力したいという決意を共有することです。

## 2倍の忍耐、2倍の祝福

再婚を視野に入れて交際中のカップルに会うと、わたしはそんな二人を喜び、彼らが時間を共有できるパートナー兼親友を得たことをうれしく思います。でも、二つの家族を一つ



にしてからの最初の数年が決して祝福に満ちた楽しい時だけではなかったこともよく覚えています。再婚に犠牲が付きものであり、どうしてこんなに苦勞しなければならないのかと二人で悩んだ日々もありました。

今は、10代の頃に互いに気に入らない存在であった娘たちも母親になり、家族が集まる夕食で経験談を話し合ったり、時には家族の山荘で一緒に休暇を過ごしたりすることもあります。伝道中の息子たちに激励の手紙を送ったり、外国に住んでいる子供たちが互いに訪問し合ったりすることもあります。子供たちはいつも、祝日のディナーにみんなで楽しく集まり、めいやおいが生まれるという知らせを聞いては喜び合っています。

今、家にいるのはアルンフィンとわたしだけです。楽しいことが大好きな犬と、飼い始めたばかりの小鳥がいます。子供たちは学業の合間や結婚したばかりのときに、よく実家に帰って来て自分の寝室を使っています。皆、いつ訪ねて来ても歓迎してもらえると知っていますし、立ち寄るたびに食事を出してもらえ、喜んでもらえることも知っています。

二つの家族を一つにまとめるには2倍の愛と2倍の忍耐が必要です。たくさん料理もしましたし、洗濯も半端な量ではありませんでしたが、そうしただけのことはありました。わたしたちはこの大家族が大好きです。2倍の数の人を愛することで得られる祝福は、2倍すばらしいからです。

それに、わたしたちの家族は増え続けています。新しい世代のかわいい赤ちゃんがいて、みんなわたしたち二人の孫です。■

筆者はノルウェー在住です。

## アリスはわたしの証あかしを読んでいた

**電**話に出ると、地元の専任宣教師の一人が興奮した声で、数日後にバプテスマがあることを伝えてくれました。言うまでもなく、バプテスマは宣教師にとっては常に心躍る出来事ですが、バプテスマを受ける姉妹の名前は聞いたことがありませんでした。でもその長老は、わたしを驚かせたいので、必ずバプテスマ会に出席してほしいと言うのです。彼はそれ以上何も言いませんでした。

バプテスマの日、わたしは教会に早く着いて、その驚きとは何なのかを確かめようと思いました。しかし、わたしはバプテスマを受けようとしているアリスという若い女性を知りませんでしたし、彼女がわたしを知っているようにも思えませんでした。

心地よい御みたま霊に包まれたバプテ

マの後、アリスはモルモン書を手に取り、その教えが真実であること、その教えに感謝していること、特にモルモン書が救い主の証人であることについて証を述べました。証の中で彼女は、モルモン書がどのように彼女の元に来たかを話しました。彼女は地元のショッピングモールの売店で働いていました。ある日、一人の女性がやって来て、彼女の上司にモルモン書を渡しました。その上司は興味がなかったので、その本を棚の上に置きました。

しばらくして、売店が場所を変えることになったとき、上司はその本を捨てるように言いました。しかしアリスは興味を覚え、その本を少しだけ見て、もらってもいいかと尋ねました。

アリスはモルモン書を家に持ち帰って数週間で見終え、その本に書か

れている真理に確信を持ちましたが、どうすればよいか分かりませんでした。数か月後、別の仕事に就いた職場で、一人の末日聖徒と一緒に働きました。アリスがその男性の末日聖徒にモルモン書と教会について質問したとき、彼とその妻は宣教師と会うように勧めました。

それからこの姉妹は、モルモン書の表紙の裏に書かれた証を読みたいと思います、と言いました。その証はわたしが書いたものでした。売店でアリスの上司にモルモン書を渡す前に、そこにわたしが証を書いたのです。

長老たちはうれしそうにほほえんでいました。このことは、わたしの人生でかつて経験したことがないほどの最も快い驚きでした。バプテスマ会の後、福音によって結ばれたわたしの新しい姉妹は走って来てわたしを抱き締めました。

アリスのバプテスマの証人となり、アリスがモロナイの勧告のとおり、モルモン書を読んで祈ることで得た謙遜な証を聞いて、とてもうれしい気持ちになりました。「もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」(モロナイ 10:4)

神の子供の一人がイエス・キリストの福音から得られる祝福を受けるために、わたしが小さな手助けができたことに深い感謝の念を抱いています。■

フェイス・ワトソン  
(アメリカ合衆国、ユタ州)

**売**店が場所を変えることになったとき、上司はその本を捨てるように言いました。しかしアリスは興味を覚え、もらってもいいかと尋ねました。





わたしは、  
一体どうしたら  
子供たちの伝道資金を  
支払う助けができるのか  
心配でなりませんでした。

## 息子をふさわしく育てる

何年も前のこと、ひとり親として4人の子供の養育に押しつぶされそうだったとき、母と兄の寛大な計らいで、わたしは大学に戻って勉強できることになりました。車で学校へ行く途中、わたしは子供たちに対するわたしの希望と夢について考えました。わたしは改宗者でした。子供たちが他の人々に福音を教え、わたしが感じた幸福をその人々にもたらし機会にあずかること、それがわたしの最大の望みでした。

ある朝、学校へと車を走らせているとき、わたしは、22か月違いで生まれた上の二人の息子のことを考えていました。二人とも伝道に出るのであれば、長男は、次男が伝道に出る頃に、伝道から帰って来ることになります。わたしはそのことで悩み、一体どうしたら二人の伝道資金を支払う助けができるのか心配でなりませんでした。次男はもちろん、長男の資金を工面することさえできるかどうか分かりませんでした。

この不安は4日間続きました。その間、わたしは答えを求めて祈りました。5日目に、答えが与えられました。「息子をふさわしく育てなさい。資金

を工面することはたやすいが、ふさわしい息子に育てるのは容易ではない。」

心が平安で満たされました。それは金銭的な心配からかけ離れた驚くべき答えでした。わたしの務めは子供をふさわしく育てることだったのです。わたしは、家庭の夕べを開き、教会に出席し、子供たちをセミナーに通わせ、息子たちが若い男性の活動に参加するのを助けることができました。祈り、断食、聖文学習を、わが家の家庭生活における大切な習慣とすることができました。自分が責任を果たせば、子供たちは伝道に出る機会にあずかるということを、わたしは知っていました。

こうした日課に加えて、わたしたちには、愛にあふれたすばらしいホームティーチャーが割り当てられていました。ホームティーチャーと彼の奥さんは毎月欠かさず我が家を訪問してくれました。彼は子供たちにレッスンを教え、祝福を施し、子供たちのスポーツ行事に来てくれました。友人たちが子供たちをステーキ神権会や泊まりがけのキャンプに連れて行ってくれました。働いて収入を得る機会を子供たちに与えてくれたステーキの会員、

もう一組の親のような役を果たしてくれた隣人、学問や音楽、スポーツを通じて規律や一貫した姿勢を教えてくれた学校の教師がいました。

長男が19歳になったとき、伝道のための資金は準備できていました。結局、4人の子供たち全員の伝道資金を手にすることができたのです。子供たちは、メキシコ、ブラジル、それにアメリカ合衆国のサウスカロライナ州とバージニア州で伝道しました。下の子供たち二人は、伝道に出た時期まで同じでした。

その経験について考えると、イザヤ書に書かれた主の言葉をよく思い出します。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なってい[る。]」（イザヤ55：8）

受けた勧告に従うとき、祈りは答えられます。また、それに伴って祝福がしばしば与えられます。主に仕えることで、子供たち自身の人生、さらには子供たちが教えた人々の人生が変わったことを、わたしは知っています。彼らの奉仕のおかげで、わたしたちの家族は祝福を受けました。また、何世代にもわたって祝福を受け続けることでしょう。■

ジャネス・ジョンソン（アメリカ合衆国、カリフォルニア州）

## バプテスマがたった二人

**グ**アテマラ・グアテマラシティー伝道部の伝道部会長を務めていたときのことです。新しい宣教師が何人か来たので、わたしは自己紹介をして、自分の改宗とバプテスマについて話しました。

わたしが9歳で、アメリカ合衆国モンタナ州グレンダイブに住んでいた頃、デビッド・ツリー長老とウェイン・マシューズ長老から教えを受けたことを話したのです。1957年のある寒い冬の日、この二人の宣教師とグレンダイブ支部の一人の会員は、わたしをアメリカ合衆国ノースダコタ州ウィリントンまで車で連れて行き、そこの集会所のフォントでバプテスマを受けられる

ようにしてくれました。

話を終えてから、新しい宣教師たちと面接をしました。すると、その中の一人、ベンジャミン・ピクストン長老が、デビッド・ツリーは自分の祖父だと言い出しのです。わたしは驚き、感激しました。ツリー長老はモンタナ州グレンダイブに住む9歳の少年にバプテスマを施しました。そして、その少年は50年近くたって、その孫が奉仕する伝道部の会長に召されたのです。

ピクストン長老が伝道を終えるとき、両親と祖父母が迎えに来ました。そして、わたしはデビッド・ツリー兄弟と喜びの再会を果たしました。ツリー兄弟と話しながら、わたしはモルモン

書を見せました。彼がメッセージと約束を書いて、バプテスマを受けた日にくれたモルモン書です。

ピクストン長老の母親からは、自分の父は伝道のことをあまり話さなかったと聞きました。自分の伝道はあまり成功ではなかったと感じていたので、バプテスマに導いたのが、一人の独身女性と9歳の少年の二人だけだったからです。

彼のおかげで結局、わたしの家族は全員が改宗し、兄とわたしは伝道に出ましたし、わたしの9人の息子たちも伝道に出ました。そのことを話して、彼に感謝の言葉を伝えました。彼の伝道のおかげで、数え切れないほ

**あ**る寒い冬の日、二人の宣教師と支部の一人の会員は、わたしをアメリカ合衆国ノースダコタ州まで車で連れて行き、そこの集会所のフォントでバプテスマを受けられるようにしてくれました。



## 誠心誠意祈る

どの人が福音の教えを受けて教会に入ったと話しました。

ツリー長老と同僚のマシューズ長老をはじめとして、多くの善良でふさわしく、献身的な神権者たちがわたしの子供時代と青少年の時代に、面倒を見てくれました。この二人の宣教師がイエス・キリストの福音を教えて主の王国に導いてくれたことに、わたしはいつまでも感謝します。わたしは神の王国で、計り知れないほどの祝福を受けてきました。■

トーマス・R・コールマン  
(アメリカ合衆国カンザス州)

1960年に、わたしはあるパーティーで一人の青年に会いました。彼は、イエス・キリストが復活した後にアメリカ大陸を訪れられたことを話してくれました。わたしはその話に心を奪われ、もっと知りたいと思ったので、図書館に行って調べたり、わたしの故郷のエルサルバドル、サンミゲルにあるさまざまな宗派で尋ねたりし始めました。

3年近く調べましたが、何も見つけることができませんでした。キリストがアメリカ大陸に來られたことを聞いたと宗教指導者に言うと、あなたはだまされていると言われました。調べても何の情報も得られなかったので、結局わたしは、彼らが正しいのだと思うようになりました。

ある日、末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣教師がわたしの家にやって来て、わたしの家族に大切なメッセージを伝えたいと言いました。わたしはすぐに彼らに質問しました。「イエス・キリストがアメリカ大陸に來られたかどうか知っていますか。」

一人の宣教師がこう答えました。「わたしたちはその証人です。」

その瞬間に、わたしは思いと心に大きな興奮を覚えて質問しました。「どうやってそのことを知ったのですか。」

彼はバッグから1冊の本を取り出して言いました。「このモルモン書という本のおかげで、キリストがこの地に來られたことを知っています。」

わたしは、宣教師が最初のレッスンで教えてくれたことが心に引っかかりました。天父と御子に関する預言者ジョセフの示現の記録が信じられなかったのです。

しかし、わたしはモルモン書に引かれるものを感じ、宣教師の教えを学び続けました。ある日の午後、彼らはわたしにこう質問しました。「わたしたちが教えていることが真実かどうかを知るために祈ってみましたか。」

祈ってはいるが答えは何も受けていないと答えました。

「誠心誠意祈らなければならないのですよ」と彼らは言いました。

わたしは幾晩もモルモン書を読みました。キリストがニーファイ人に御姿を現されたことについて読み、それは信じましたが、まだジョセフ・スミスの示現を受け入れることができませんでした。わたしの心の葛藤は大変なものでした。

ある夜、わたしは一人でひざまずき、神に心を開きました。神が本当にジョセフ・スミスに御自身を現されたかどうかを知る必要があると神に話しかけました。もしそれが事実なら、バプテスマを受けて教会に入り、生涯神に仕えることを約束しました。

翌朝早く起きると、聖霊を通して答えが与えられました。混乱は消えうせ、わたしの心は平安に満たされました。そのときから今日まで、ジョセフ・スミスが本当に神の預言者であったこと、モルモン書がイエス・キリストについてのもう一つの証であること、イエス・キリストがわたしたちの救い主であり贖い主であられることに、一抹の疑いも持ったことはありません。キリストが復活された後にアメリカ大陸に來られたことを知っています。わたしの魂は、聖霊の力によってわたしに教えられたこのすばらしい知識に大きな喜びを感じています。■

カルロス・レネ・ロメロ(エルサルバドル)



# モルモン書は 幸福について どう教えているか

ブリガム・ヤング大学宗教教育講師  
ハンク・R・スミス

リーハイは息子のヤコブにこう教えました。「人が存在するのは喜びを得るためである。」(2ニーファイ2:25)

わたしたちは皆幸福になりたいと思っています。自分の家族や友人が、明るく、平安で、満ち足りた生活を送っている光景を目にしたいと度々願います。そんな彼らの生活は幸福で満ちあふれていることでしょう。しかし、誰もが自分の人生でひとたびならず、幸福とは言えない時があったはず。「自分は本当に幸福になれるのだろうか」といぶかったことのある人すらいるかもしれません。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように言っています。「この〔モルモン書には〕主が皆さんのために授けられた教えが詰まってい〔ます〕。ニーファイもモルモンもモロナイもそのことを知っていました。この書物を編さんした人たち

は、皆さんに宛てたメッセージをこの書物に残しました。」<sup>1</sup> 神は、御自分の子供たちには一人残らずこの世にあって幸福になってほしいと願っておられます。モルモン書の中に永遠の幸福の原則を書き残されたのはそのためです。皆さんは全編を通じてそうした原則を見つけることができますが、特に2つの章、つまりニーファイ第二書第5章と第四ニーファイ第1章には明確な指針が書かれています。わたしたちがもし喜んでその原則に従って生活するなら、わたしたちの幸福もさらに深まることとなります。

## ニーファイ第二書第5章

リーハイの死の直後、主はニーファイに警告を与えて、レーマンとレムエルが彼の命を奪おうとしていると告げられました。主はニーファイに、彼と一緒に行く人々を連れて荒れ野へ逃げるようにと言われました。この大脱出やニーファイ第二書第5章27節にあるような新しい共同体を設立するに

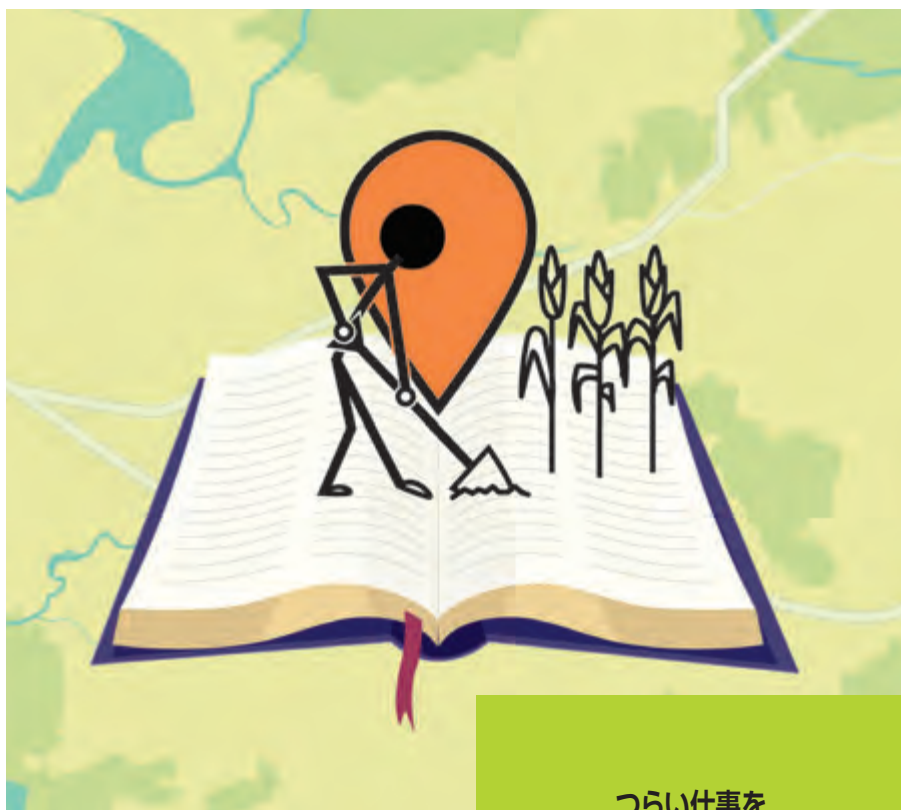
モルモン書の2つの章から  
引き出すことのできる  
7つの原則から、  
本当の意味で幸福になるためには  
何が必要なのか  
ということ学ぶことができます

は、困難があったことは間違いありませんが、ニーファイはそれをこう説明しています。「そして、わたしたちは幸福に暮らした。」この章には、わたしたちが自身の生活の中でも従うことのできる幸福の在り方が示されています。

## 高め合える人間関係を維持する

ニーファイは、自分と一緒に荒れ野へ逃げた人々について、「神の警告と





啓示を信じる者たちであった」と言っています(6節)。幸福になるための重要な要素の一つは、わたしたちの社会的な交わりの中にあります。ですから、わたしたちと信仰を共有し、一緒にいると心が高められるような人々と時間をともに過ごすことは、わたしたちにとって大切なことです。家族とともに時間を過ごす以外に、わたしたちの信仰を強めてくれるような友人と心を高め合える交わりを持つこともできます。そうした関係や交わりは、わたしたちの幸福に大きな影響を与えます。カリフォルニア大学バークレー校の社会学者であるクリスティーン・カーターはこう書いています。「友情、家族との関係、隣人との結びつきといった、個人と社会との交わりの量や質は、福利や個人の幸福と密接な

**つらい仕事を  
完成させたときに  
しばしばもたらされる  
達成感というものが、  
幸福をもたらすのです。**

関係があるため、実質的にこの二つの価値は同じである。」<sup>2</sup>

#### **行動と信仰の一致を図る**

第10節で、ニーファイは、自分の民は「主の戒め」を守ったと書いています。戒めを従順に守ることは、幸せな生活を送るうえで重要な要素です。ベニヤミン王はその民に対して「神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい」と励ましています(モーサヤ2:41)。神の戒

めを信じながら、それに従って生活しないというのでは、幸福になるのは難しいことです。従順は、心の平安と良心の安らぎをもたらしてくれます。インドにおいて精神面と政治面での指導者であったマハトマ・ガンジーは、次のように書いたとされています。「幸福とは、思うことと、言うことと、行うことの間で調和のとれている状態である。」わたしたちの信仰と行動が一致していなければ、わたしたちの生活で調和を再構築するための鍵は悔い改めということになります。

#### **つらい仕事を完成させる**

ニーファイ第二書第5章の11節と15節で、ニーファイは、自分の民が種を植え、収穫し、家畜を飼い、建物を建て、さまざまな鉱石を精錬したことを記録し、さらに次のように書いています。「わたしニーファイは、民を勤勉に働かせ、また手を使って働くようにさせた。」(17節)これらの聖句から、幸福を手に入れるためには、労働というものがきわめて重要な要素になっていることがはっきりと分かります。家庭でも、家の周囲でも、地域でも、職場でも、わたしたちには毎日労働をする機会が与えられているのです。トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「神が人類に与えてくださったのは未完成の世界でした。それはわたしたちが自分たちのさまざまな技術を用いて物事を成し遂げていくようにするためです。神は雲の中に電気を、また地中に石油を備えてくださいました。しかし、御自分から、川に橋をかけたり、森の木を切り出したり、町を築いたりはされませんでした。人間に与えられたのは、もともになる材料を用いて努力する機会で



あり、完成品がもたらす安逸ではありません。絵を描き、歌を歌い、問題を解決するように求められているのです。それによってわたしたちは、創造の喜びとすばらしさを知ることができます。」<sup>3</sup> 簡単に言えば、創造的であるという喜び、そしてつらい仕事を完成させたときにしばしばもたらされる達成感というものが、幸福をもたらすということなのです。

### 神殿に焦点を合わせる

ニーファイはまた、新しい共同体を建設するに当たって、彼や彼の民が時間をかけて神殿を建築した、と記録しています(16節)。神殿の祝福と幸福とは不可分の関係にあります。神殿では救いの計画について教えられ、わたしたちがこの地上にいる理由について思い出す機会があります。わたしたちは、自分が愛する天の御父の子供であることを学び、御父の計画の中であって、わたしたちの人生には偉

大な目的があることを知ります。神殿では、神を身近に感じ、その臨在や力を感じ、自分の存在が認められていると感じます。たとえ定期的に神殿に参入することができなくとも、現在有効な神殿推薦状を持ち、家庭に神殿の写真飾っておけば、かつて参入した神殿の経験を思い出し、そこで学んだ真理を思い出すことができるのです。

### 第四ニーファイ第1章

第四ニーファイでは、預言者であり歴史家でもあったモルモンが、救い主の訪れを受けたニーファイの民に、その後、どのような変化が起きたのかを記録しています。ニーファイはこの人々について記載するに当たって、こう指摘しています。「神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。」(4 ニーファイ1:16)

### 自分の持っているものを分かち合う

第3節では、モルモンが、この人々について「すべてのものを共有した」ので「物持ちも貧しい者も」なかったと記録しています。現在でも、自分自身の生活の中で幸福を求めるわたしたちにとって、自分の持っているものを他の人々と分かち合うようになるということは、大切なことです。

これまで複数の研究から明らかになったのは、奉仕のために使った時間や人のために使ったお金は、わたしたちの幸福に直接影響があるということです。<sup>4</sup> そうすると、ベニヤミン王が民に次のように語った理由もうなずけます。「自分の持っている分に応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用にに応じて霊的にも物質的にも助けを与えることである。」(モーサヤ4:



26) わたしたちには困っている人々を助ける機会が数多く与えられています。奉仕や断食献金、教会の運営するさまざまな基金がそれです。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように言っています。「人類の歴史を通じて、貧困は最も蔓延<sup>まんえん</sup>している最も大きな試練の一つであると見なされてきました。貧困は明らかに物質的な苦痛を与えますが、それはまた、霊的、情緒的に一層大きな苦痛を与えることがあります。その重荷を持ち上げる業に加わるようにと、偉大な贖<sup>あがな</sup>い主は絶えず呼びかけてこられました。」<sup>5</sup> わたしたちが人を助けることにもっと努力と時間を投じ、方策を講じるならば、わたしたち自身の幸福も深まることが分かります。

#### 家族の一員となる

モルモンは、この民が「めとり、嫁ぎ」をしたと記録しています(4 ニー

ファイ1:11)。結婚して、子供を育てるということは(10節参照)、そのような機会が与えられた人々にとっては、大きな幸福感を生みだす基となります。大管長会第二顧問を務めたジェームズ・E・ファウスト管長(1920 - 2007年)は、こう言っています。「結婚生活と親の務めを通して得られる幸福は、他のいかなる幸福よりもはるかに勝るものです。」<sup>6</sup>

しかし、家族との関係が幸福をもたらすと言っても、結婚していなければならぬとか、自分自身の子供がいなければならないということではありません。シングルアダルト、青少年、そして子供たちも同じ祝福にあずかることができるのです。家族の生活の中で幸福を味わうためには、わたしたちは家族一人一人に対して、友情、理解、愛を抱けるよう努力する必要があります。家族でいると、情緒的、あるいは物理的な安心感をもたらし、帰属意識

を深めてくれますが、そういう思いは幸福を経験するうえで欠くことのできないものです。

#### 平和を作り出す人となる

モルモンは、第四ニーファイで4度にわたって、この人々の間には「民の心の中に宿っていた神の愛のために」(15節)「争いがなかった」と書いています(2, 13, 15, 18節参照)。争いと幸福とは対極にあるもので、まったくかけ離れた概念です。救い主はニーファイの民に対して、争いの危険性について警告し、次のように言われました。「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。」(3 ニーファイ11:29) わたしたちは、自分の職場や学校、家庭に、争いの心を持ち込むようなことをしたり、言ったりすることのないよう、最大限の努力をする必要があります。むしろ、わたしたちは自分の心の中に神の愛を育てることがで



きるよう、あらゆることを行っていく必要があるのです。

争いというものは、忍耐力のなさから生まれることが往々にしてあります。御霊みたまの助けを受けて、わたしたちは自分の性癖を変え、もっと忍耐強くなることができます。大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は次のように言っています。「忍耐できないのは、利己心の現れです。それは自己中心的な人の特徴です。世の中に広まっている『宇宙の中心』症候群と呼ばれる病気に根ざしています。この病気にかかると、世界は自分を中心に回っており、周囲の人は全て、自分が主役を演じる人生の大舞台の脇役にすぎないと信じるようになります。」<sup>7</sup>

もっと良い方法があります。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長（1910 – 2008年）は、わたしたちをこう励ましています。「優しい答え方にもっと磨きをかけてください。そうすれば、皆さんの家庭には祝福がもたらされ、皆さんの生活にも祝福がもたらされることでしょう。」<sup>8</sup>

### 幸福を求めましょう

モルモン書には幸福の原則が書かれています。今回は、二つの章に書かれている部分だけを採り上げました。モルモン書の他の部分では、どんな原則を見つけることができるでしょうか。もっと幸福な生活を送るために、モルモン書の中からさらに多くの指針を見つけようと自分自身の努力を始めることは、賢明なことでしょう。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 – 1994年）は、聖徒たちに次のように約束しています。「モルモン書を……真

剣に読み始めるや否や……モルモン書を通して豊かに得られるようになるのです。」<sup>9</sup> そのための大切な道具をわたしたちは主から賜たまわったのです。わたしたちは、自分自身の生活と愛する人々の生活に祝福をもたらすために、もっとこの書物を活用することができるのです。■

#### 注

1. ヘンリー・B・アイリング「モルモン書はあなたの人生を変えてくれます」『リアホナ』2004年2月号, 15
2. クリスティーン・カーター, “Happiness Is Being

Socially Connected”, 2008年10月31日, [greatergood.berkeley.edu](http://greatergood.berkeley.edu).

3. トーマス・S・モンソン「幸福な人生の探究」『聖徒の道』1988年8月号, 3
4. 例として、ダン他著, “Spending Money on Others Promotes Happiness”, *Science*, 第319巻(2008年), 1687 – 1688; ネット・ワインシュタイン, リチャード・M・ライアン, “When helping helps: Autonomous motivation for prosocial behavior and its influence on well-being for the helper and recipient”, *Journal of Personality and Social Psychology*, 第98巻(2010年), 222 – 224; アキニン他著, “Prosocial spending and well-being: Cross-cultural evidence for a psychological universal”, *Journal of Personality and Social Psychology*, 第104巻(2013年), 635 – 652を参照
5. ジェフリー・R・ホランド「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」『リアホナ』2014年11月号, 40
6. ジェームズ・E・ファウスト「結婚生活を豊かにする」『リアホナ』2007年4月号, 5
7. ディーター・F・ワークトドルフ「忍耐し続ける」『リアホナ』2010年5月号, 57
8. ゴードン・B・ヒンクレイ “Cornerstones of a Happy Home” (1984年1月29日, 夫と妻のための衛星放送における講話), 8
9. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 6 – 7



幸福になるために  
モルモン書の中から  
さらに多くの指針を見つける  
作業を始めましょう。

# インスティテュートの 卒業が大切な理由

インスティテュートで  
4つの新しい  
コーナーストーンクラスを  
取れば、  
福音学習の質を  
高めることができます。

セミナリー・インスティテュート  
マシュー・ポーター・ウィルコックス

**20**15年4月の総大会で、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、ヤングアダルトに向けて、「今必要なのは、教会の歴史上最高のヤングアダルトとなる人々です」と述べています。「ヤングアダルトの皆さんは、インスティテュートに登録する必要があります。インスティテュート……は生活をバランスの取れたものにし、非宗教的な教育に加えて、聖文と預言者や使徒の教えを研究する時間を過ごす機会を提供します。」<sup>1</sup>

福音についてヤングアダルトの理解を深め、イエス・キリストに対する彼らの証<sup>あかし</sup>と献身を強め、彼らの生活に関して個人的な導きを得られるように、インスティテュートプログラムでは、全てのヤングアダルトの学習の質を高める必要性が強調されています。こうした質の向上は、主として、3つの方法に反映されます。4つの新しいコーナーストーンコースを提供するという方法と、インスティテュートを卒業することにさらなる重点を置くという方法、

そして読書課題と理解度調査を達成することにより、全ての生徒が霊的な学習に積極的に参加するよう招くという方法です。

## 4つの新しいコーナーストーンクラスとはどのようなものでしょうか

旧約聖書や新約聖書、モルモン書、教義と聖約などのクラスは引き続き提供されますが、これからは4つの新しいコーナーストーンクラスが、インスティテュートのカリキュラムの中心的な役割を果たすようになります。4つのコースの名称は、(1)「イエス・キリストと永遠の福音」、(2)「回復の礎」、(3)「永遠の家族」、(4)「モルモン書の教えと教義」です。名称からも分かるように、こ

これらのコーナーストーンクラスは、聖文や生ける預言者の言葉に出てくる福音の基本的な教義と歴史と教えを扱っています。

「[これらの新しいコーナーストーンクラスにより]これまでの広範囲にわたって調べるタイプのコースよりも、聖文をもっと掘り下げて研究することが





コーナーストーンクラスは、  
約 30 か国語で  
受講することができます。

できるようになるでしょう」とブリガム・ヤング大学の宗教教育学部長であるブレント・L・トップ兄弟は語っています。宗教教育セミナー・インスティテュートの教育長であるチャド・ウェップはこう付け加えています。「聖文が密接に関連づけられており、彼らがともに成長するとき、全ての標準聖典を研究することで、さまざまな洞察、理解、力が生まれます。」<sup>2</sup>

この若い女性も同じようなことを言っています。「まだよく知らなかった回復について、本当のところ、どれほど多くのことを学んだかは疑問ですが、以前にはできなかった関連づけができるようになったと思います。コースには、多妻結婚、全てのふさわしい男性に与えられる神権、マウンテンメドールの虐殺といったテーマも含まれていました。クラスでのそのようなテーマに関する話し合いを通じて、疑いというよりもむしろ信仰に根ざした情報を得ることができました。また、このコースを受けることで、回復と現代の出来事が結びつきました。その結果、実は、自分も回復に関係しているということが分かりました。預言者ジョセフ・スミスやブリガム・ヤング、その他の開拓者だけの回復ではなかったのです。わたしの回復でもあったのです。」

### インスティテュートの卒業を目標とする必要があるのはなぜでしょうか

インスティテュートを卒業することについて、他の生徒たちが何と言っているか、少し紹介しましょう。

「わたしはインスティテュートの卒業を目標としました。払った犠牲も多かったのですが、報いとして、福音についての理解、知識、そしてより強い証が得られました。」

「卒業後、以前よりも強くなり、新しいことを経験する準備ができました。他の人たちにも卒業するよう勧めるつもりです。」

「卒業することで、霊的な事柄を達成し、永遠の救いという自分の目標を目指して前進し続けることができます。」

また、卒業を目指して努力することによって学習の質を高めるとき、福音学習を優先し、福音に関する知識を深めることができます。このようにして身につけた真理は、織り込まれ、証というすばらしいつづれ織りとなるのです。つまり、インスティテュートの卒業と霊的な強さの間には深い関係があるのです。■

#### 注

1. M・ラッセル・バラード「ヤングアダルト—最も偉大な世代の人々」『リアホナ』2015年5月号、68、69
2. マリアヌ・ホールマン・プレスコット、「Four New Classes Added to Curriculum for Church Schools,」*Church News*, 2014年11月11日付

### 卒業するには何を必要があるでしょうか

あなたは、さらに積極的に取り組み、インスティテュートの卒業を最優先にし、福音の土台の一部とするよう求められています。結果的には、必要な14単位\*を取得するとともに、知識を増し、改心の度合いを深めることができます。この単位を取得するための条件は以下のとおりです。

- 2単位に相当する下記のコーナーストーンクラスをそれぞれ受講します。
  1. 「イエス・キリストと永遠の福音」
  2. 「回復の礎」
  3. 「永遠の家族」
  4. 「モルモン書の教えと教義」
- 自分が選択した他のクラスを受講することで、あと6単位を取得します。
- 加えて、ビショップまたは支部会長から、受講するにふさわしいかどうかの確認を受ける必要があります。

\* クラスの単位を取得するためには、少なくともクラスの75%に出席し、読書課題を達成し、コース理解度調査を終える必要があります。

# 大きく考えよう

「他の人が何と言おうと、自分ができることには限界があると思いたまわないでください。  
自分自身を信じ、次に自分の可能性を実現するように生活してください。」

トーマス・S・モンソン大管長（「豊かな人生を送る」『リアホナ』2012年1月号, 5）



# 皆さんの信仰は

偶然ではなく、  
選びによって  
成長するのです。

十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

2015年10月総大会



日曜日のレッスン

.....  
今月のテーマ——

救いの計画

サラ・N・ホール

**母**が自分は乳  
がんだと分  
かったとき、

わたしは17歳でした。その知らせに家族は大きなショックを受け、わたしもひざまずいて必死で祈りました。1時間近くも泣き続けたのでしょうか、わたしは、神がなぜこんなことが起こるのを許されたのか、そして母は癒やしていただけるのか、尋ねました。数日たって救いの手が差し伸べられ始めました。ワードの会員、親戚、友人、隣人たちが母の病気を知ったのです。何か手助けしようと駆けつけてくれたのです。食事が提供され、優しい言葉や行いがもたらされ、心配や同情の言葉が寄せられました。わたしたちは彼らの深い愛を感じました。

でも、それだけの助けを受けながら、わたしは重度のうつになってしまったのです。わたしは自分に起きていることに関心が持たなくなりました。好きだったこともやめました。家事も、学校のことも、教会の召しも投げ出しましたし、熱も冷めてしまったのです。わたしは自分の置かれた状況を見て、余分な責任が加えられたことが大きな重荷を負わせられたような気になりました。自分は一人で何でもできるのだから



# わたしの回復室

母は、間違いなく病人でした。でも、わたしにも癒やしが必要だったのです。

ら、誰の助けも受ける必要はないという心境になったのです。

サタンはわたしに対しては特に懸命に働きかけてきました。重荷を感じていてもいい、神はわたしに不幸になってほしいと願っている、そしてわたしは何も特別な存在ではない、と語りかけてきたのです。悲しいことに、それを信じたこともありました。わたしは、物事の良い面がまったく目に入らなかったのです。自分が神の娘とは思えませんでした。混乱のために盲目になり、数多くの祝福が見えなくなっていたのです。鏡を見ることさえできませんでした。苦痛や心の痛みを感じていたのです。

でも、ありがたいことに、一人の親友が多くの時間を費やしてわたしを助けてくれました。身内のきょうだいたちも同じようにわたしを支えてくれました。わたしは両親に対して心を開くようになり、両親もそれに応えて、わたしにもっと心を開いてくれるようになったのです。でも、わたしはまだ苦しんでいました。

わたしが気落ちしていると、母はよく慰めてくれたものです。何もかも望みがなくなったと感じたとき、誰か話しかけてくれたり、助けてくれたりする人がいるのは、とてもありがたいことでした。母は、治療の合間に家に戻って、洗濯物にアイロンをかけたり、食事の準備をしたり、わたしたちに慰めや助言を与えてくれたりしていました。母がどうやってそのような試練に耐えながら、なお利己心を持たずにいられるのか、わたしには驚きでした。

ある日、わたしが自分のうつ状態について母と話し合っていたとき、母は「あなたは泣いてはいても、自分には助けが必要だと正直に話したのだから、弱くなんかいいわ」と言いました。母は、わたしの方が母の面倒を見るべき立場だったのに、わたしのことを心配してくれていたのです。

母は何度も手術を受けましたが、ある手術の後、回復室へ運ばれていったことがあります。そのとき、わたしは自分にも回復室が必要なのだと考えずにはいられませんでした。わたしは癒やしの過程をどこから始めたらいいのか、まったく分かりませんでした。何かを始めないといけないう状況でした。

そこで、自分の持っていたはずの才能や能力を回復することから始め、同時に新しい才能や能力を伸ばすことも試みま

した。料理や洗濯も始めました。考えるために、散歩にもっと時間をかけるようにしました。ソロで歌うこともやってみました。クラリネットやピアノの練習にもっと時間をかけ、上手に弾けるようになりました。読書の量も増やしました。心を高めてくれる音楽をもっと聴くようになりました。教会の指導者や他の価値ある情報から勧告を得られるよう、身の回りを整えました。個人の祈りと断食と聖典研究を通じて、神や救い主をもっと身近に感じるようになりました。

それでも、わたしはそんな平安が長続きしないように感じていたのです。平安を感じたいと思っている日に、寂しさか感じられないのはつらいことでした。感情の起伏の差はますますひどくなっていきさえました。平安を求める自分の旅はまだ始まったばかりのように思えました。

そんなある日、わたしは若い女性のクラスの仲間と一緒に、死者の身代わりのバプテスマを受けるために神殿へ行きました。神殿の中にいる間に、また聖典のページを何となくめくっている間に、自分の問題について考えました。気がつくといザヤ書第53章4節にある救い主の御言葉みことばを読んでいた。「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。」

数分後、わたしの目をくらませ、大きな痛みの原因となっていた混乱が完全に消えていました。主がわたしの心の闇と絶望にメスを入れ、代わりに御霊みたまによる平安を残していただくさったのです。長い間感じたことのなかった晴れやかさと幸福感を味わうことができました。これまで受けた祝福の多さに、そしてわたしや家族のためにさまざまな人がしてくれたことの多さに、改めて目を見張りました。家族や友人とさらに近くなったことにも気づきました。自分自身が本当に神から愛される娘なのだと実感しました。

あのとき、神殿はわたしの回復室だったのです。

この経験を振り返ってみて、わたしは、自分よりも不運な人々に対してもう少し共感や思いやりを持つことができるようになったことが分かります。わたしは、どこで回復できるのか、分かっています。わたしの生涯で最も大変な年は、わたしの生涯で最良の年となったのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



すばらしい仕事、家族、  
あかし証が欲しいですか？  
それには今日、  
成功への道を  
選ぶことです！



# あなたの将来

## 目的をもって卓越する

**将**来の夢を実現するために今選択するのは難しいと思われるかもしれませんが、しかし、10代のときに下す良い決断は、良い報いをもたらすことでしょう。この方法は、ある預言者が与えた次の勧告に従っています。「わたしたちの日々の行いや選択は、目標と一致したものでなければなりません。」(クエンティン・L・クック「賢明に選ぶ」『リアホナ』2014年11月号, 49)

これから紹介する4つの体験から、今日の熱心な準備を通して将来の成功を手にすることができるということが分かります。

### スーパーヒーローを描く——リント・テラー

クリントはアメリカ合衆国ユタ州で育ち、カリフォルニア州のニッケルオデオン・スタジオで絵コンテアーティストとして働いています。

**あなたが誇りに思っている業績として、どのようなものがありますか。**

わたしはワーナー・ブラザーズ・アニメーションのディレクターを務め、ディズニー、ワーナー・ブラザーズ、ドリームワークス・スタジオ、マーベル・コミックス、ソニー・ピクチャーズ・エンターテインメントで働いてきました。Teenage Mutant Ninja Turtles (ティーンエイジ・ミュータント・ニンジャ・タートルズ) から X-Men (X-メン), Dora the Explorer (ドーラといっしょに大冒険) までさまざまなアニメ番組を手がけてきました。

**あなたはどのようにして現在の仕事につながる技術身につけましたか。**

わたしは子供の頃、興味のあるものの絵を描くのが好きで

した。何時間もかけて、戦士やスーパーヒーロー、動物など、当時面白いと思ったものは何でも絵にしました。練習を重ねるごとに、上手になってきました。努力、観察、また根気強さによって才能が伸びたことに気づきました。神から素晴らしい賜物<sup>たまもの</sup>を授かったと感じ、抜き出たいと思いました。

**伝道に出たことは、仕事での成功に、どのような備えとなりましたか。**

韓国での伝道はわたしにとって不可欠な経験でした。信仰、自制、卓越した者になる決意を学ぶのに役立ったからです。伝道から帰ったとき、以前よりも自信が増していました。困難なことを実行し、やり遂げたからです。それは確かに、大学でより良い学生になるのに役立ちました。



クリント

## 成功を収めるのに、教育はどのような役割を果たしましたか。

伝道から帰還後、ユタ大学の芸術学部で絵画を学びました。それから1学期を海外のフランスで過ごし、ヨーロッパにおける芸術と文化を学びました。その結果、目と心が開き、芸術作品に対する関心が深まりました。

こうした経験のおかげで、かなり広範囲にわたって自分自身の作品の蓄えができました。大学を卒業するとすぐに、ある人から声が掛かりました。その男性は、マーベル社の *Spider-Man and His Amazing Friends*。(スパイダーマン&アメイズング・フレンズ) に取り組める画家を探していたのです。

## コンピューターの達人となる — イオアナ・シファーネット

イオアナはルーマニアで育ち、ブリガム・ヤング大学で情報システムを専攻しています。

## この仕事をするために、若い頃どのような備えをしましたか。

今はプログラミングやデザインを数多く手がけていますが、それらは突然に目覚めて得意になったわけではありません。これまでに下した実におびただしい数の小さな決断の結果として、今携わっている仕事ができるようになっていくのだということを知っています。

あえて難しいクラスを受講し、時間を割いて異なる分野やその分野と関係のある人物について研究しました。また、専門職の人たちに会い、助言をもらいました。彼らは仕事のプラス面とマイナス面を知っており、何らかの方向性を与えるのに助けとなることでしょう。

## 何の学科が最も役に立ちましたか。

経験上、高校で、また特に大学で学んだ学科で一番役に立ったのは、技術に関連するものでした。外国語(わたしの場合は、英語)の学習も役に立ちました。他の国の人々や文化に対する理解と尊敬の念を深めることを教えてくれたからです。外国語は直接仕事に結びつかないかもしれませんが、雇い主は、あなたがグローバルなものを見方ができることを知るととてもうれしいものです。

## 不安を感じたことがありますか。

もっと若いときは、自分が楽しくできる仕事を実際に見つけられないのではないかと不安でした。その後、いざそれが見つかったときには、その分野で成功を収めるのに必要



な素質が自分にはないのではないかと不安でした。

自分が楽しいと感じるものを見つけだそうとするときに、不安を抱くことはよくありますが、だからといって萎縮しないでください。

## 不安をどのようにして克服しましたか。

何よりも助けになったのは、じっとしていないで、例えば、インターネット上での個別指導やクラブへの加入などのように、有意義な活動に参加したことでした。そうすることで、物事をはっきりと理解し、知識を得、自信をつけることができます。共通の趣味を持つ友人グループやクラブは、実に力強い助け手となることがあります。世界は絶えず変化しており、学ぶべき新しいことが常にありますが、確かな支援体制と優れた技術があれば、その変化についていくことも楽しくなります。

## 福音に対する愛を育む — ジェス・マクスウィーニー

イギリスのヤングアダルト、ジェスが、10代の若者として、福音に確固として従い続けるために払った努力を語ります。

## どのようにして証を強めましたか。

10代の頃、わたしは聖文を研究しました。指導者からそうするように勧められたからです。信仰を持ち、証が成長するように願いながら研究したことで、まさしくそのとおりになりました。

今、ヤングアダルトになって気づいたことがあります。わたしが福音を学び、成長したいと望むのは、福音を用いることで人々に影響を及ぼすことができると知っているからです。自分が学ぶことは全て、自分だけでなく他の人の役にも立つということを知っています。

## 自分の助けとなるように目標を立てましたか。

セミナーに出席していたときには、聖文を毎日読むという目標を立てました。しかし、毎日の聖文研究が習慣化するとともに、

わたしの動機にも変化が起きました。目標を達成するためだけでなく、聖文を愛し、証を強めたいという理由から、聖文を読み始めたのです。そうすることで得る報いは目には見えませんが、永遠に残る何かを得られます。

**福音に対する愛は、これまでの人生でどのように助けとなりましたか。**

福音学習に対する愛を育むことは、知識を得るだけでなく、福音の原則を理解し、実践することと関連しています。聖文の中から問いかけをし、答えを見つける習慣を育むとき、証に加えて、自分が学んだことを人々に伝える自信を得ることもできます。

**一生懸命努力し、勤勉であることは、どれほど大切でしょうか。**

人生のどの分野においても、知識を得るには時間と努力が必要です。しかし、わたしにとって、イエス・キリストの福音を学ぶことは、ひたむきに努力を傾けるべき最も大切な事柄です。キリストについての証を得たければ、キリストについて学ばなければなりません。

### 幼い子供たちを育てる——ハン・リン

ハン・リンは台湾で生まれ、育ちました。彼と妻はハワイ州ライエ神殿で結び固められました。現在は、二人の子供とともにアメリカ合衆国ハワイに住んでいます。

**あなたにとって良い父親の定義は何でしょうか。**

良い父親とは、完全な人ではなく、謙遜であって、他の人々の助言を聞き、自らを改善しようと常に努力する人です。自分の家族と家族の必要を最優先にします。自分の家族をより良い家族にするために、自分の時間、個人的な興味、ま

たその他全てのことを喜んで犠牲にします。どうすれば家族の一人一人が成長してキリストに似た者となることができるか、その方法を知ろうと努力します。

**今のあなたになるために、若い頃どのような備えをしましたか。**

全ての戒めを守り、良い決断を下すために最善を尽くしました。セミナーへの出席も、助けとなったことは間違いありません。朝の5時に起きなければなりませんでしたが、相当な覚悟が必要でした。しかし、自分と同じ目標を持っている友人たちがいることは助けになったと思います。互いに励まし合えたからです。教会の若人として、また親友のグループとして行った活動は、どれも本当に役立ったと思います。

**良い父親となるために、社会からのどんなメッセージに対処しなければなりませんでしたが。**

世の中では、楽しみは多く、責任は少ない方がいいと言う声が聞こえます。しかし、何をやるにしても、勤勉に働くことなく、成功を収めることはできません。良い父親となるには、家族のために全てのものを差し出す必要があります。完全を目指して成長すること、それは生涯にわたって続く過程です。家族とともに成長するのです。

**10代のときの自分自身と他の10代の若人に、何を伝えたいですか。**

誰もが友人を必要としています。ですから良い友人を作ってください。「熱心に善いことに携わ[る]」人たちと友人になってください(教義と聖約 58:27)。そのような良い友人から学んでください。そうすれば、彼らの模範から影響を受け、彼らのようになって自分自身を改善したいと思うようになるでしょう。

行いたいと思う全てのことについて最善を尽くしてください。努力の出し惜しみをしないでください。そうすれば、後で振り返ったときに、何の後悔もないでしょう。■



ジェス



ハン



七十人  
ウオン チ・ホン  
黄(サム) 志康長老

# 聖霊を通して 与えられる助け

聖霊は

霊的なことはもちろん、  
学校や家族、仕事でも  
助けてくださいます。

**聖**霊は、生活のあらゆる  
面でわたしたちを助け  
ることがおできになり  
ます。それは、ブリガム・ヤ  
ング大学ハワイ校に  
通っていたときに実  
際の体験を通して  
学びました。

当時わたしは、仕事をしながら履修  
できるクラスを全て取っていました。  
妻とわたしには赤ちゃんもいて世話が  
必要でした。このような多くのことに  
追われて勉強に割ける時間があまりな  
かったため、聖霊が常にいてくださる  
ように毎日祈っていました。時間を無  
駄なく効果的に使うために導きが必要  
だったのです。講義の資料を理解し、  
それを後の試験のときに思い出す  
ための助けが必要でした。

## 学校の試験で与えられた天からの助け

ある日の講義で、教授がある論点  
を説明するために幾つかの高度な方  
程式をホワイトボードに書きました。  
その複雑な方程式はその講義には関  
係のないものでしたが、教授は簡単  
に説明したいと思ったのです。数分後  
には方程式を消してしまいました。

次のクラスはコンピューターサイエ  
ンスで、その日は試験がありました。  
そして何と、前のクラスでホワイト  
ボードに書かれたものと同じ方  
程式がテストに出たのです。  
しかもまったく驚いたこと  
に、このコンピューター

### 波長を合わせるための二つの方法

天の御父にとって、全て、つまりわたしたちの生活の全ては霊に関わるものです。御父はわたしたちにとって何が最善かを知っておられ、日々の生活を通してわたしたちを教え、導きたいと願っておられます。ですからその導きを受けるために、聖霊の霊的な導きに自分の波長を合わせておくことが非常に重要です。わたしが見つけた、聖霊の波長に合わせる助けとなる方法が二つあります。

#### 1. モルモン書を毎日読む。

わたしが若い頃、エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994年）は、毎日モルモン書を読むことが大切であると教えました。わたしはその教えを実行し始め、それ以来思い出せる限り、ずっと続けています。毎日、読み、深く考えるための静かな時間を見つけています。読んでみると何度も、聖霊は何かしら新しいことを教えてくださいます。

#### 2. この世の妨害を避ける。

青少年の皆さんは本当に多くの点で才能豊かです。非常に聡明なので、驚くほど上手に霊的な波長を合わせることができます。しかし、世界は躍起になって皆さんのじゃまをしようとしています。皆さんが進んで注意を払い、気をそらすものを遮断するなら、聖霊から必要な導きを受けるようになります。

サイエンスのクラスでは一度も勉強したことのない方程式でした。そのクラスの前に出席した講義の記憶が全てよみがえり、わたしはその問題に答えることができました。

この問題の正解者は一人もいないと思い込んでいたコンピューターサイエンスの教授は、採点の際、自動的に全学生の答えを不正解としました。しかし、答案用紙を返してもらってから、わたしは自分の書いた答えが正しいことを教授に見せました。すばらしい経験でした。

大学在学中、聖霊の助けによって勉強の機会を最大限に活用することができました。良い成績を取って奨学金を得ることができ、それは学費を払う助けとなりました。

### 生涯の導き

大学も終わりに近づくと、友人の多くは学業を続けて修士号を取得する計画を立てていました。わたしは勉強することが好きでしたが、同じようにしたいと思いましたが、御霊がはっきりとわたしのハワイでの使命は終わったと告げました。故郷の香港に帰る時が来たのです。

妻とわたしはその促しに従いました。そのときのわたしには、学業を続けられないよう導かれている理由が理解できませんでした。しかし時には、詳しいことの全部は分からなくても御霊に従うことがあるのです。わたしも妻

も、これからどうなるか予測できない状態で仕事とアパートを探しましたが、祝福されてすぐに成功を収めることができました。

今、当手を振り返ってみると、なぜあのおとき、御霊があればほど強く香港に帰るようわたしたちを促したのか理解できます。家族とわたしにとって、香港の会員たちとともに教会で強められることがとても大切だったのです。わたしは地域七十人に召される前、ビショップ、ステーキ会長会の顧問、そしてステーキ会長として奉仕しました。退職後に、修士号を取ることができま

した。こうした経験の全てが助けとなって、現在の召しを受ける備えができたのです。

どのようなときも聖霊の導きを求めて従うことは、人生の計画を立て、生活するための最も良い方法であると証します。教会の会員として確認を受けたとき、皆さんには聖霊の賜物が授けられました。その賜物を使うなら、何をするにも大きな助けを得ることができます。■

「わたしの友人の何人かは、  
教会に行くのは時間の無駄だ  
と思っています。  
教会に行くと大きな祝福が得られる  
ということを分かってもらうために、  
わたしにはどんな助けが  
できるでしょうか。」

**た**とえを使って友達に説明したらよいかもしれません。体に飲食と睡眠が必要で、精神に学習が必要なと同様、霊にも養いが必要だと説明すると思います。教会に行くと、霊を養うことができます。

福音を学んだり、<sup>せいさん</sup>聖餐を受けて天の御父と交わした約束を更新したりすることによって、霊を養うのです。こうしてよく考え、決意を新たにすることによって、「いつも御子の<sup>みたま</sup>御霊を受け……る」という約束の祝福を受けることができます（教義と聖約 20：77）。御子の御霊を受ければ、信仰が強くなり、さらにキリストのようになることができます。

また、その他の祝福についても友達に話すといよいでしょう。教会で感じる平安な気持ちについて話したり、教会でためになることを学んだらそれを教えてあげたり、奉仕する機会があることを伝えたりしたらどうでしょうか。また、教会に行くと安息日<sup>あかし</sup>を喜びの日にすることができると証してもいいかもしれません（イザヤ 58：13 - 14）。

おそらく、一番効果があるのは、来て自分の目で見てもらうことです。あなたと一緒に聖餐会やその他の集会に出席すれば、友達は聖霊の力を感じるでしょうし、福音を学ぶことができ、会員の生活が福音によって祝福されていることが分かるようになるでしょう。



**御霊の導きを受ける**

教会に行くことについて証すればよいのです。教会に行くとどんなにいい気持ちができる

か、教会でどんなに素晴らしいことを学んでいるかを説明するとよいでしょう。証するときに何を言えばよいか分かるよう御霊が助けてくれますし、友達にも、あなたが本当のことを言っていることが分かるでしょう。友達も、いろいろなことが分かってくるにつれて、興味を持つようになるかもしれません。一緒に教会に行こうと誘うことだって、できるようになるかもしれませんよ。

ミケール・M, 13歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

**教会に誘う**

教会に行くのは時間の無駄だと思っている友達がいるのはつらいことですが、天の御父が一人一人にどんなものを用意しておられるかを分かってもらえるようにすると、幸せを感じられるようになるでしょう。彼らを教会に誘って、奉獻された集会所にいる喜びを感じてもらうことができます。また、彼らが天の御父への愛を感じるようになり、教会に出席することによって得られる祝福に気づくようになるという信仰を持ちましょう。そうすることによって、彼らを助けることができます。

オスカー・Y, 19歳 (ベネズエラ, モナガス)



**聖餐を中心に考える**

教会に行くのが大切なのは、それが、わたしたちが交わしたバプテスマの聖約とその他の全



での聖約を、聖餐によって更新することのできる場所だからです。聖餐をふさわしく取って、聖約のわたしたちの側の義務を果たすならば主の御霊をいつも受ける、と主は約束しておられます。御霊から受ける守りや導き、慰めは、日々の生活に欠かせません。この特別な祝福は、教会に行き聖餐を受ける以外の方法では得られないのです。

ダイアナ・R, 16歳  
(アメリカ合衆国, オレゴン州)



### 大胆になる

ただ彼らに話し、彼らを誘えば、理解してもらうことができます。聖典をプレゼントしたり、宣教師に彼らの家を訪問してもらったりしてもいいでしょう。遠慮は要りません。喜んでください。彼らは教会に入るかもしれないのですから。

デビッド・H, 12歳  
(アメリカ合衆国, ニューメキシコ州)

### 自分にできることをする

教会に積極的に出席して学び、言われたことや教えられたことを理解しようと努めるならば、教会に行くことは時間の無駄にはなりません。御霊を感じるすることができますし、時には新しい出会いがあります。

イーサン・H, 15歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)



### 光を輝かす

教会員であるわたしたちは、イエス・キリストの福音の中で学んだ事柄のおかげで輝い

ています。良い模範を示し、教会に行くことにより祝福を受けて幸せに生活していることを友達に見てもらってください。そうすれば、教会に行く価値があると教えていることになります。

ジョアンナ・R, 20歳  
(フィリピン, スリガオ・デル・スル)

### 常に永遠の観点から物事を見る

わたしたちは教会が地上における神の王国だということを知っているので、完成に一步近づき、日の栄えの王国に一步近づくために毎週教会に行きます。毎週教会に行くことによって(聖餐を受け、)聖約を新たに交わして天の御父に近づき、自分が霊的にどのような状態にあるかを見て自分を評価するのです。

エステル・M, 17歳  
(コンゴ民主共和国, カサイオリエンタル州)



### 喜びの日

「教会のワードと支部は、休息と更新のための毎週の集い、この世を離れる時間と場所——すなわち安息日——を提供してくれます。それは『主によって喜びを得』る日 [イザヤ 58 : 14]。聖餐とともに訪れる霊的な癒やしを得、主の御霊がともにいてくださるといふ約束を、もう一度、新たに受ける日です。」

十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老  
「なぜ教会が」2015年11月号, 109参照

## 次回の質問

「学校や宿題にたくさん時間を取られています。週日の青少年の活動に参加する時間や、家族と個人の聖文研究を行う時間はどのようにして作ればよいでしょうか。」

あなたの意見をお聞かせください。2016年3月1日必着で [liahona.lds.org](mailto:liahona.lds.org) に投稿するか、[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) まで電子メールをお送りください。郵送でも結構です(郵送先については、3ページをご覧ください)。希望する場合は、高解像度の写真も添付してください。

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入りの同意文を必ず明記、または同封してください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載に対する同意文。18歳未満の場合は保護者の署名も必要です(電子メール可)。

掲載される際、誌面の都合上、または分かりやすい表現にするために編集されることがあります。



十二使徒定員会  
ダリン・H・  
オークス長老

## 喜びを見いだすには

**兄** 弟姉妹の皆さん、いかなる年齢であれ、わたしは皆さん一人一人に、**悪事は決して幸福を生じたことがないということ**を覚えておくよう強くお勧めします。また罪は惨めな結果を招くだけだということも忘れないでください。若人の皆さん、見た目はきらびやかでも、この世のつまらない物事に幸せを求めないようにしてください。誤ったものを追い求めても永続する幸せを手にすることはできません。ある人が言いました。「不必要なものは、いくら手にしても満ち足りることはない。不必要なものは、それ自体、満足をもたらさないからである。」

あらゆる世代の皆さん、**マスコミの偽りのメッセージから目も心も遠ざけるように**しましょう。アルコールや薬物の中に幸せなどあり得ません。奴隷の状態に陥るだけです。暴力も同じです。苦痛や悲しみをもたらすだけです。夫婦間以外の性的な関係やみだらな行いは、幸せではなく、墮落と霊の死を速やかに招くだけです。

永続する幸せは所有物の中にはありません。**幸せや喜びは人格によってもたされるものであって、持ち物や見かけ**によるものではありません。青少年の皆さん、**標準を固く守ってください**。救いに導くパンフレット『**若人の強さのために**』を熟読し、活用してください。

**義は義を生み出します**。義にかなった模範は、子々孫々にまで影響を及ぼします。良い親に恵まれた子供は、また良い親になります。さまざまな地で、先駆者となった先祖たちのすばらしい模範によって、わたしたちの多くが強められているように、今日のわたしたちが行う義にかなった選択や犠牲が、将来何年にもわたって子孫や友人、ひいては自分の国を祝福することになるのです。

神を信じる信仰を実践し、戒めを守れば、永続する幸せと究極の喜びが得られることを証します。愛する人々のために**義にかなった影響を及ぼし、神の戒めを守る**ことによって得られる喜びを求めよう、皆さん一人一人に強くお勧めします。■

1991年10月の総大会における説教から抜粋



### 自分にどのように 当てはめましたか

去年わたしは学校で、もっと友人たちと一緒にいろいろやってみようという決心しました。でも今では、それによって自分がこの世界的になり、家族や本当の友達から遠ざかり始めたことに気づいています。そう決心したことで、味わわなくても済むはずだった心の痛みもたくさん味わってきました。今年は、もっと教会に集中することにしました。慈愛に満ちた、キリストのような特質を身につけようと努力した結果、真の幸せと喜びを見いだすことができました。熱心に求める人は誰でも、この祝福にあずかれることを知っています。

イーリアム・ジェームズ・O、17歳  
(オーストラリア)

# 危うく逃しそうになった 伝道の機会

「成長するわたし」の目標のために、わたしは伝道の経験ができるよう祈り始めました。そして、どの友達が一番教会に入ってくれそうか考えました。

何か月もたち、思うような経験はできないのではないかと考えていた頃、ブレンダと出会いました。ブレンダはその年にわたしたちの学校に入って来た生徒でした。

日がたつうちにブレンダと仲良くなりましたが、彼女を教会に誘おうとは思いませんでした。ところが、ある友達が自分の教会にブレンダを誘ったのです。わたしは「何てこと！わたしも誘ってみればよかった」と思いました。

翌週、ブレンダは友達の教会が楽しかったのでまた行きたい、と言いました。わたしは「負けた」と思いました。競争だというわけではなく、天の御父の子供たちに福音を伝えなかったのです。

当時、集会所は改築中で、数か月後に再奉献される予定でした。ビショップはオープンハウスと奉獻式の招待状を配っていました。わたしは集会所の近くに住んでいる友達を皆招待しました。たった一人招待に応じたのがブレンダでした。わたしはとてもうれしくなりました。

オープンハウスの数日前、ブレンダはオープンハウスに行けないかもしれないと言いました。彼女のお母さん

がいい顔をしなかったからです。わたしはがっかりしましたが、納得しました。そして、教会について学ぶ機会はまだあるだろうと彼女に伝えました。

ところが驚いたことに、ブレンダはオープンハウスに来たのです。ブレンダはお母さんに話して、来ることを許してもらえたのです。わたしはブレンダを宣教師に紹介しました。一緒に集会所の各部屋を回り、教会のそれぞれの組織について簡単な説明を聞きました。最後に多目的のホールに行き、回復や家族歴史、永遠の結婚といった福音のテーマに関するパンフレットを手に取りました。ブレンダは「わたし、信じるわ!」と言いました。

日曜日には教会に出席し、月曜日はモルモン・ヘルピングハンズの奉仕プロジェクトに参加しました。

ブレンダの心にまかれた種は日々成長していきました。習慣を改めて戒めに従うようになり、間もなくバプテスマを受けました。

数年たった今でも、ブレンダは真の福音を見いだせてどれほど幸せか、またそれを助けたわたしにどれほど感謝しているかを話してくれます。

福音について人に話すのが難しいことがよくありますが、祈り、聖文を研究し、聖霊に耳を傾け、進んで誰かに話そうとするならば、主は助けてくださいます。■

筆者はブラジル、セルジッペ在住です。



**アンネ・ラレスカ**  
福音を伝えたいと  
思いました。  
でも、友達の誰が  
関心を持って  
くれるでしょうか。



イラスト：マイケル・ムン



十二使徒定員会会長  
ラッセル・M・  
ネルソン会長

# どうしたら にちようび 日曜日を

## 特別な日にできるでしょうか

神はわたしたちが  
仕事からはなれて休み、  
神に近づけるように、  
この特別な日を  
あたえてくださいました。

日曜日に教会に行き、  
せいさんを取るなら、  
わたしたちはもっと  
幸せになれるます。

日曜日は  
家族ですぐすのに  
すばらしい日です。

人々に奉仕すること、  
特に病気の人や  
さびしい思いをしている人を  
助けることによって、  
日曜日を  
喜びの日としましょう。

主の日に、選んで行く  
事柄によって、  
わたしたちは主に  
愛をしめすのです。

「安息日は喜びの日」  
『リアホナ』  
2015年5月号, 129 - 132 から

# 心向ければ

(簡易伴奏)

静かに ♩ = 88-104

詞・曲 サリー・デフォード

G C D G Em D

1.もし イ エ ス さ ま と お な じ じ だ い に い た ら し ゅ と  
 る よ げ ん しゃ は キ リ ス ト の み こ と ば を ま る  
 り と せ い ぎ お し え な ぐ さ め あ た え る し ゅ を

G C D G Em Am B

と も に あ る き み こ と ば き い て み た い で も  
 で し ゅ が か た る よ う に つ た え て く れ ー る た だ  
 あ か し す る み た ま の し ず か な こ え に こ こ

Em B7 G Cm G Em

い ま は せ い ぶ ん を よ む と き に  
 し く へ い あ ん に い き る み ち を こ こ ろ む け れ  
 ろ は み た さ れ へ い あ ん う け て

Am D7 | 1, 2. G Am D G Am7 D

ば し ゅ の こ え が き こ え る  
 2. い け  
 3. し ん

3. G Am D C Cm G

が き こ え る

しっかりと立つ子供たち

# 標準を分かち合う

ヒラリー・ワトキンス・レモン



スイスのジュネーブに住んでいます。  
大きくなったら、古生物学者か  
動物のお医者さんになりたいと思っています。  
ぼくは犬のハッピーと走ったり、  
遊んだりするのが大好きです。



学校で教員は、ぼくたちきょうだいだけです。よい  
友達はたくさんいますが、中には標準がちがう  
友達もいます。ぼくは、友達から気に入られなくて  
も、いつも自分が信じることにしっかりと立とうと  
決めました。

こんにちは。  
ぼくの名前は  
アイザックです。



## 紅茶をことわる

スイスではみんな冷たい紅茶をよく飲みます。  
ぼくの誕生日パーティーのとき、友達が冷たい  
紅茶がほしいと言いました。ぼくの家にはない  
と答えると、なぜないのか聞かれました。ぼくの  
家族は紅茶を飲まないからと誠実に答えました。

### 妹を助ける

妹のメイラには、**のうせいまひ**があります。車いすに乗っていて、**体を起こしたり、家の中で移動したりするの**に助けが必要なき**とき**があります。ぼくは妹を助けるのが好きです。**放課後**、お兄ちゃんの**サミュエル**とぼくは、お父さんと家に戻る**ように**妹を学校の外に連れて来ます。



### 勇敢な宣教師

妹はおそれずに**自分が信じることを話**します。メイラはもう**今から自分のバプテスマ会**の計画をしていて、**友達を招待**したいと思っています。



### 良い言葉づかい

ぼくは**友達に**、**ぼくの周りでは悪い言葉を使わないでほしい**とお願いしています。でも、**それでも悪い言葉を使う友達**がいます。ある日、ある男の子がぼくに**悪い言葉を無理に言**わせようとしてました。ぼくは「**絶対に言わない**」と答えました。その子は**びっくり**していましたが、**それ以来**ぼくに**悪い言葉**を言わせようとはしなくなりました。

### 親切な友達

お兄ちゃんの**サミュエル**は**良い**もはんです。ある日、**マックス**という名前の**新入生**が学校に**来**ました。その子は**韓国語と英語**を話しましたが、**フランス語**は話せませんでした。サミュエルは**マックス**が**かんげい**されていると**感じ**られるように**助け**たり、**フランス語**を**学**べるように**助け**たりしました。今では、**放課後**に二人でよく**遊**びます。一度**マックス**はぼくたちと**一緒**に**教会の活動**に来てくれた**こと**もありました。

### しっかりと立つための アイザックからのていあん

**両親**と**救い主**にしたがう  
**教会の活動**に行く  
**日曜日**に**教会**に行き、**せいさん**を取る  
人をうやまう■



# あかしという宝物

レオナルド・ロドリゲス  
本当にあったお話をもとに書かれました。

「そして、……わたしは今、  
自分自身で知っている。  
主なる神が神のせいなるみたまによって  
これらのことをわたしに明らかに  
されたからである。」(アルマ5:46)

サブリナはお母さんが近所の人と  
ドアの方に歩いて行くのを見て  
いました。「この本をありがとう」と、  
そのお父さんが言いました。お父さん  
は、手にモルモン書を持っていました。  
「お母さん、なぜお母さんはみんな  
に教会について話すの。」サブリナは  
後でお母さんと一緒にお皿をあら  
いながら聞きました。

「それはね、教会についてのあかし  
はお母さんにとって宝物だからよ」と  
お母さんが言いました。「あかしがあ  
るおかげで、お母さんは本当に幸せな  
の。だから、他の人も幸せになれるよ  
に、それを分かち合いたいのよ。」

サブリナは、お母さんの宝石箱に

入っている、キラキラかがやくネック  
レスを思いうかべました。「宝物って  
どういうこと。」

「それはね、あかしはとてもかちがあ  
るものということよ」とお母さんは  
言いました。「何が真実か分かるよう  
に助けてくれる、天のお父様からのお  
くり物なの。」

「どうやってそれをもらったの。」  
サブリナは、知りたいと思いました。

お母さんは、サブリナにふいてもら  
おうと、きれいになったお皿を手渡し  
ました。「少しづつもらったのよ。お  
いのりしたり、聖文を読んだりする  
ときに、心の中に平安で温かい気持ち  
がするわ。まるで、あかしという宝  
物を増やしている感じね。」

サブリナはゆっくりとうなずきまし  
た。自分も、あかしという宝物を手に

あなたが  
あかしを伝えるとき、  
それはどんな宝物に  
なるでしょう。





「福音が真実であるということを自分で  
学び……ましよう。今がその時、今日  
がその日です。」  
七十人会長  
クレグ・C・クリステンセン長老  
「自分自身で知っている」  
『リアホナ』2014年11月号, 52



入れられるかしら、と思いました。  
日曜日、サブリーナの初等協会の先生がイエス・キリストについてお話をしてくれました。サブリーナはよく聞きました。ロベス姉妹は、イエスがすべてのおさない子供たちに自分のところに来るようにと言われたことを話してくれました。イエスはみんなに祝福をおあたえになり、お教えになりました。サブリーナがイエスについて考えると、心の中で温かい気持ちを感じ始めました。  
サブリーナは初等協会の後、急いでお母さんをさがしました。「お母さん、聞いて。あのね……」サブリーナは自分が感じた温かい気持ちをお母さんに話しました。

「それはすてきね」とお母さん。「その気持ちは、せいいいがわたしたちの心にふれてくださって、福音が真実だと教えてくださるときに感じるのよ。」  
サブリーナはにっこりしてお母さんを見上げました。「そうなの。心の中が幸せな気持ちになったの。」せいいいの声はとても静かだったので、もし自分がけいけんしていなかったら、気づかなかっただろうとサブリーナは思いました。

お母さんはしっかりとサブリーナをだきしめてくれました。「これであなたも自分のあかしの宝物ができたわね。」サブリーナもお母さんをぎゅっとだきしめました。そして自分もお母さんのように、自分の宝物をみんなと分かち合いたいと思いました。でも、どうやったらそれができるのでしょうか。

その夜、サブリーナは表にイエスの絵が書かれているパス・アロング・カードを見つけました。そしてそれをリュックに入れました。

次の日の休み時間、サブリーナはカー

ドのことを思い出しました。それを取り出して、友だちのカーラをさがしに行くと、「どうぞ、カーラ、あなたにもらってほしいの」と言いました。

カーラはカードをしっかりと持つと、「ありがとう。わたし、イエス様の絵が大好きなの」と言ってくれました。

サブリーナはカーラに、カードのうらに書かれているウェブサイトを見せると「ここで、もっとイエス様について知ることができるのよ」と言いました。

「それはどの教会なの。」カーラが聞きました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会よ」とサブリーナが答えました。「わたしね、教会に行ってイエス様について勉強すると、幸せな気持ちになるの。」

カーラはカードをポケットに入れると、「このカード、お母さんに見せよ

うっと」と言いました。  
1週間後、授業が始まる前にカーラがサブリーナにかけよって来て、「ねえ、話したいことがあるの」と、にこにこしながら言いました。

サブリーナは心の中で何のことかしら、とわくわくしました。カーラはにっこりして「家族でああなたの教会に行ったのよ。そうしたら、あなたが言ったとおり、幸せな気持ちになったわ。」

「きっとあなたもせいいいを感じると思うわ」とサブリーナが言いました。

「そして、もうすぐバプテスマを受けると思うの」とカーラが言うのを聞いて、

サブリーナは飛び上がってカーラをだきしめました。これで二人は、あかしの宝物を分かち合うことができます。■

このお話を書いた人はブラジル、アマゾン州に住んでいます。



ふる  
新しい せかいと  
新しい せかいからの せいぶん

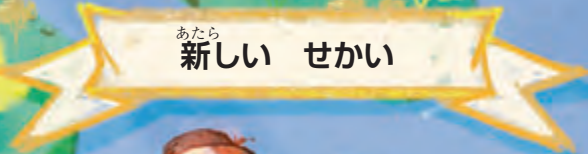
— ニーファイと かぞくが エルサレ  
— ム (「ふる せかい」) から、や  
くそくの 地 (「新しい せかい」) に  
やって来たとき、かれらは せいぶんを  
もって来ました。これらは しんちゅう  
の はんと よばれました。ふる せ  
かいでは、これらの せいぶんは せい  
しよの いちぶに なりました。

やくそくの 地で、ニーファイは  
お父さんが おし 教えたことや、かぞくの  
なかで おきたこと、天の お父さまか  
ら 学んだこと、しんちゅうの はん  
から 学んだことなどを 書きました。  
ニーファイが 書いたことは、モルモ  
ン書の いちぶに なりました。■



モロナイ

モルモン



あたらしい せかい



アルマ



せいしよ

モーセ



ニーファイ



ふる  
古い せかい

リーハイ



イザヤ



さまざまな ちの  
よげんしゃ

つぎの せいを 読んで、地図の  
よげんしゃと 合わせましょう。

1. 出エジプト 19:20

2. 列王下 20:14

3. 1ニーファイ 2:1-2

4. 1ニーファイ 18:22

5. モーサヤ 18:7

6. モルモンの言葉 1:9

7. モルモン 8:1, 4

1. モーセ: 2. イザヤ:  
3. リーハイ: 4. ニーファイ:  
5. アブラハム: 6. モルモン: 7. エロハム:  
8. 出エジプト

# エノスはよくいのる人でした

エノスは、心配していたことについて、いのりました。エノスは、ほかの人についてもいのりました。エノスは自分のてきのためにもいのったのです。今月、あなたはもうしたら、エノスのようになれるでしょうか。



家族で休みに出かけたとき、ぼくたちはお父さんと弟とはなればなれになってしまいました。外はどんどん暗くなってきていました。ぼく以外の家族はどうしたらよいか分かりませんでした。ぼくは、いのったほうがいいと思うと言いました。ぼくたちはいのり、他の店に向かって歩き始めました。目を上げて通りの向こうを見ると、お父さんとおとうとが見えました。ぼくは、うれしくなりました。ぼくは、神様がぼくたちを愛しておられるので、お父さんを見つめられるように助けてくださったことを知っています。

オリバー・P, 8才 (ブラジル, サンパウロ)



「おいのりをするエノス」 アマンダ・F, 11才 (アメリカ合衆国, アリゾナ州)

き切って、折って、このチャレンジカードをもち歩きましょう。



## わたしは、よくいのる人になれます!

- エノス1しょう4せつを暗記しましょう。
- 日記帳に、天のお父様からいのりの答えをうけたときのことを書きましょう。
- scripturestories.lds.orgで、アニメのモルモン書物語の11しょうを見ましょう。
- わたしのもくひょうは、\_\_\_\_\_です。

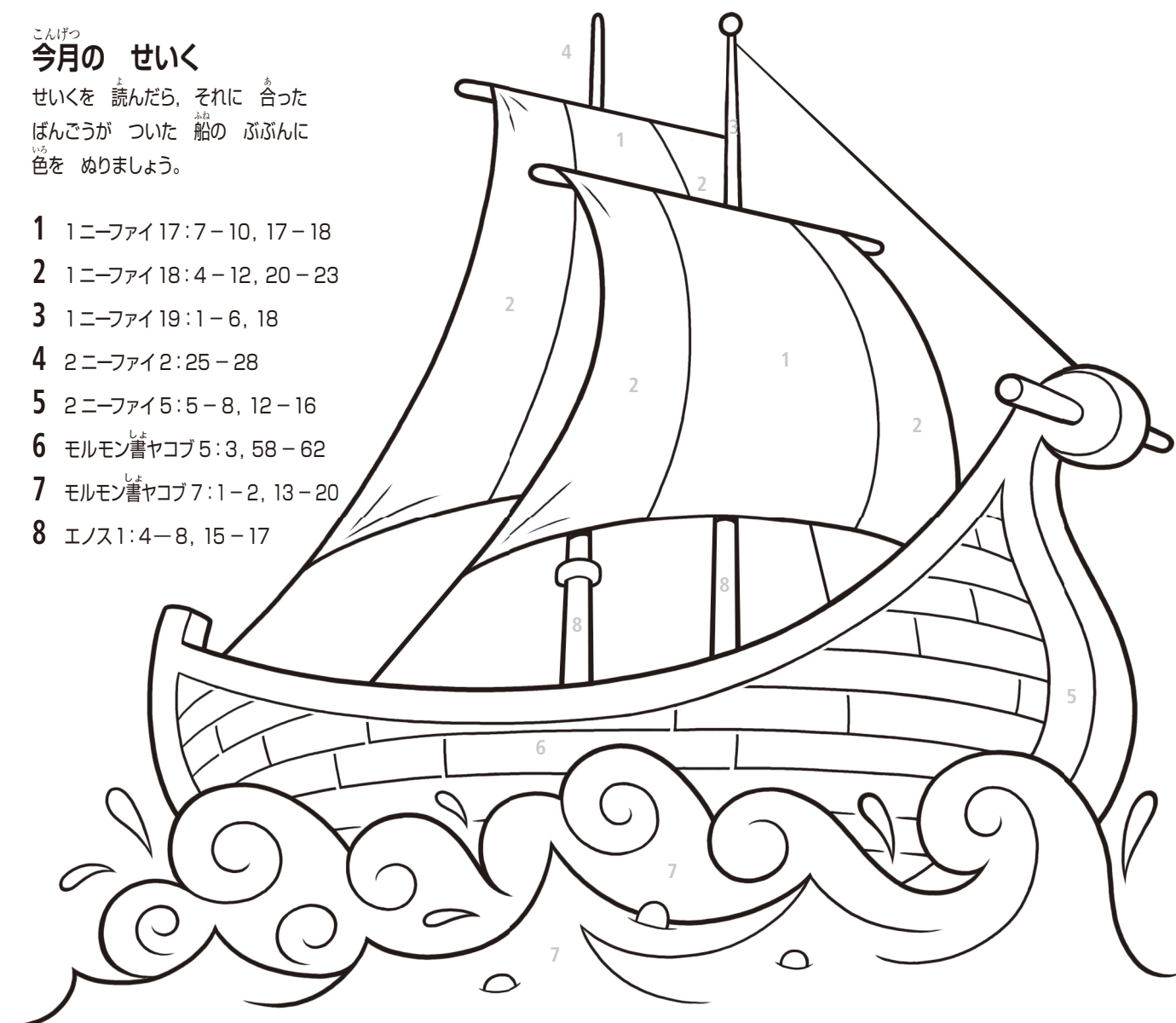
# エノス

わたしは モルモン書を 読むことが できます

こんげつ  
**今月の せいく**

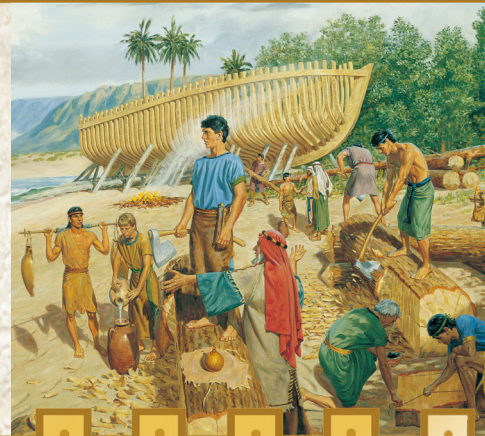
せいくを 読んだら、それに 合った  
 ばんごうが ついた 船の ぶぶん  
 いろを めりましょう。

- 1 1ニーファイ 17:7-10, 17-18
- 2 1ニーファイ 18:4-12, 20-23
- 3 1ニーファイ 19:1-6, 18
- 4 2ニーファイ 2:25-28
- 5 2ニーファイ 5:5-8, 12-16
- 6 モルモン書ヤコブ 5:3, 58-62
- 7 モルモン書ヤコブ 7:1-2, 13-20
- 8 エノス 1:4-8, 15-17



**やくそくの 地に 船で むかう**

— ニーファイは、かぞくが やくそくの 地に行けるように、船を  
 — 作りました。その 船の たびについて、76-78 ページを 読み  
 ましょう。やくそくの 地で、正しい 人は ニーファイ人と よばれ  
 ました。わるい 人は、レーマン人と よばれました。この しょう  
 では、ニーファイの 弟の ヤコブと、ヤコブの むすこの エノスから  
 学びます。来月号の 読書チャレンジを 楽しみに してください。■



「船の建築を指示する」ニーファイ17:18の部、ジェリー・トマンソン画、イラスト/シエラ・マックスウェル

# 海を うみ わたる ニーファイの かぞく



ニーファイの かぞくは あれ野の の 中 なか を、8年間 ねんかん たびしました。ついに、うつくしい  
ばしょに つきました。それは、海 うみ の そばに あり、たくさんの くだもの や はちみつ  
が ありました。みんな とても しあわせでした。



でも、たびは それで おわりでは あり  
ませんでした。天 てん の お父 とう さまは、ニー  
ファイに 船 ふね を つくるように おめいじ  
になりました。お父 とう さまは ニーファイに  
できあがった 船 ふね の ようすを お見 み せに  
なりました。また、船 ふね に のって、すば  
らしい あた ち ら しい 土地 とち に 行 い けると やく  
そくして あた ち ら さいました。

ニーファイは まず、どうぐを つくりました。その後、船を つくりはじめました。ニーファイのお兄さんである レーマンと レムエルは、もんくを 言いました。ニーファイに 船が 作れるとは、しんじなかつたのです。

ニーファイは、かぞくは 天のお父さまを しんらいすることができると 知っていました。



船が かんせいしたとき、ニーファイのかぞくは、海を わたりはじめました。ある日、レーマンと レムエルは ニーファイに はらを たてて、ニーファイを

ひもで しばってしまいました。大きな あらしが

おこり、船は 風で ふきもどされました。

お兄さんたちは、くいあらためたので、

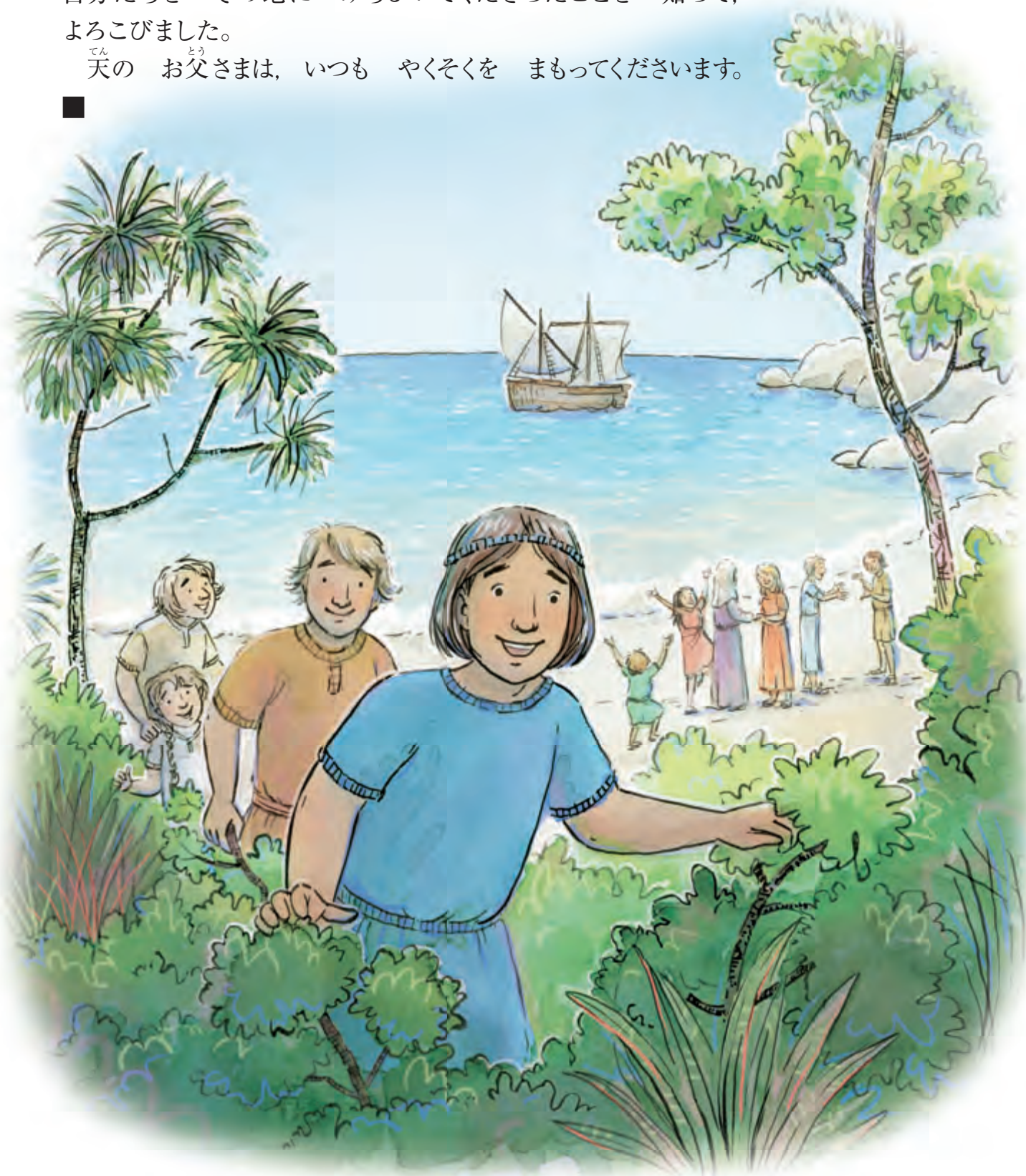
ニーファイは あんぜんに 船を もとの

こうろにもどすことができました。



ついに、ニーファイのかぞくは <sup>あたら</sup>新しい <sup>ち</sup>地の <sup>か</sup>かいがんに  
たどりつきました。ニーファイと かぞくは、<sup>てん</sup>天の <sup>とう</sup>お父さまが  
<sup>じぶん</sup>自分たちを <sup>ち</sup>その地に <sup>し</sup>みちびいてくださったことを <sup>し</sup>知って、  
よろこびました。

<sup>てん</sup>天の <sup>とう</sup>お父さまは、いつも <sup>やくそく</sup>やくそくを <sup>まも</sup>まもってくださいます。





# わたしの かぞくは とくべつです



アベノハ、セシヤ、アハ、アハ、アハ



第14代大管長  
ハワード・W・  
ハンター大管長  
(1907 - 1995年)

## 真の偉大さ

人に顧みられない、  
忘れられた日常生活の英雄は、  
わざわざ遠くを探しに行かなくとも、  
わたしたちの身近にいます。

わたしたちは世の定義による成功や偉大さを常に見せつけられているので、自分を他人や、人の表向きの姿と比べたり、自分にあるものと人にあるものを比べたりしてしまうことがよくあるのは、無理ありません。……不当な比較や不適切な比較をして、自分は十分に力を発揮していないとか、自分には力がないとか、落伍者だとか思い込んでしまい、幸せを感じられなくなることが、往々にしてあるのです。このような気持ちになると間違った考えに陥り、自分の生き方の中に真の偉大さを示す側面があるにもかかわらず、それを無視して自分の失敗にいつまでもこだわることがあります。……

……確かにそのような側面には、良い父親や良い母親になるために行わなければならないことが含まれますが、一般的に言って、それは、ささやかな奉仕と犠牲の行いを何千回も積み重ねること、つまり、人のため、主のために命を差し出し、命を失うことから生まれるのです。また、天の御父と福音について知ることが含まれます



し、他の人を信仰に導き、神の王国の仲間にすることも含まれます。普通このようなことを行っても、人から注目されることも、称賛されることもありません。……

そうです。人に顧みられない、忘れられた日常生活の英雄は、わざわざ遠くを探しに行かなくとも、わたしたちの身近にいます。それはあなたが知っている人であり、わたしが知っている人でもあって、なすべきことを常に黙々と行っている人であり、必要とされる場所に常にいて、常に喜んで働く人です。また、病気の子供を昼夜の別なく何時間も付ききりで看病する母親の非凡な勇気も偉大ですし、苦しみもがきながらも不平一つ言うことなく病と闘う人も偉大です。常に自発的に献血をする人、……母親ではなくとも、世の子供たちの母親代わりと

なって働く人、いつもそばにいて、愛し世話をする人たちも偉大です。

さらに教師、看護師、農夫など、この世の良き業のために働く人、すなわち、人を教え、食物や衣服を作り、それに加えて主の業を行い、人を啓発し愛する人もそうです。正直さと優しさをもって日々の義務を一生懸命に果たしながら、同時に主の僕であり、主の羊の群れの牧者として働く人も偉大です。……

世のごくありふれた仕事をして、自分のなしたことにどれほどの価値があるか疑問に思っている人、教会で馬車馬のように働いて、目立たないが大切な多くの分野で主の業を進めている人、また、地の塩となり、世の力となり、各国を陰で支えている人、そのような人に、わたしたちは心から称賛の言葉を贈りたいと思います。最後まで堪え忍び、イエスの証に雄々しくあるなら、真の偉大さを身につけて、天の御父のもとに戻るができるでしょう。■

「真の偉大さ」『聖徒の道』1982年7月号、32 - 35から

# 洞 察



**わたしたちは自分の伴侶をどのように見ればよいのでしょうか。**

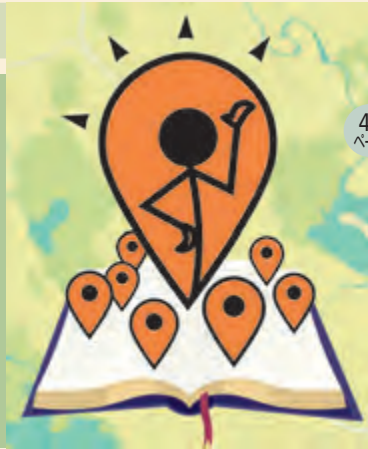
「完璧な相手と結婚する人はいません。可能性のある相手と結婚するのです。正しい結婚とは、自分が何を望むかだけでなく、自分がどのような者になることを自分の伴侶となる女性が望み、必要としているかも大切なのです。」

# 今月号のその他の記事

## ヤングアダルト

### モルモン書は **幸福** についてどう教えているか

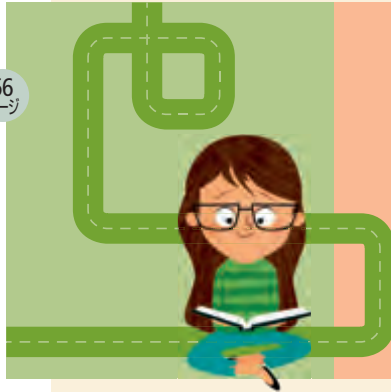
わたしたちは皆幸福になりたいと思っています。モルモン書の中にあるこれらの7つの原則が、わたしたちがどのようにして幸福になれるかを教えています。



44  
ページ

## 青少年

56  
ページ



### あなたの将来 目的をもって卓越する

今日努力することによってどうすれば望むままに将来をすばらしいものにできるかを示す、実際の体験談

## 子ども



### あかし<sup>たからもの</sup>という宝物

サブリナのお母さん<sup>かあ</sup>は、あかし<sup>たからもの</sup>は宝物<sup>たからもの</sup>のようなもの<sup>い</sup>だと言いました。サブリナも、この宝物<sup>たからもの</sup>を見つけることができたでしょうか。

70  
ページ

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

JAPANESE



4 02132823005

13282 300